

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 国語 科目 論理国語

教科：国語 科目：論理国語 単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 1組～6組

教科担当者：

使用教科書：

教科 国語

の目標：

【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 論理国語

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域		評価規準	知	態	配 時 数
		話・聞	書 読				
<p>読む 最初のペンギン</p> <p>【知識及び技能】 言葉の認識や説明の役割を理解し、論証や学術的な学習の基礎を築くために必要な語彙を増やし、文章の中で活用することで語感を磨き語彙を豊かにする。また、文や文章の効果的な組み立てや接続の仕方を深く理解し、表現力を高める。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 文章の種類を考慮しながら内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にして要旨を把握する力を養う。また、書き手の意図を踏まえながら文章の構成や表現を多角的に評価し、人間・社会・自然に関する内容を多様な視点や価値観と結び付け、新たな観点から自分の考えを深める力を育成する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 タイトルに象徴される筆者の考えを積極的に読み取り、これまでの学習を生かしながら自分の経験を振り返り、これからの生き方について深く考察する力を育成する。</p>	<p>・指導事項 本文を通読し初読の印象を確認し、段落分けを行い構成を整理する。また、「読歩」を用いた論の展開を考え、「神」と「人間」の対立図式を含む語句の意味を理解する。「最初のペンギン」の行動の意味を確認し、第二段の内容を整理する。さらに「感情」「決断」「直観」などの意味を踏まえ、不確実な状況での決断の必要性と感情の技術を磨く重要性を学ぶ。「未来感覚」などの語句を手がかりに、未知の世界に飛び込む創造の本質を考え、文章全体の整理を行う。最後に、「不確実な状況下」でどのように決断し行動するかを深く考察する。</p>	○	○	<p>【知識・技能】 言葉の認識や説明の役割を理解し、論証や学術的な学習に必要な語彙を増やしながら語感を磨き、文章の組み立てや接続の方法について深く学んでいる。</p> <p>【思考・判断・表現】 文章の種類を考慮しながら内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にして要旨を把握するとともに、書き手の意図を踏まえ、文章の構成や表現を多角的に評価する。また、人間・社会・自然に関する内容を多様な視点や価値観と結び付け、新たな観点から自分の考えを深める力を育成する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ・ICTを使用した課題（課題提出） ・ワークシート（課題提出） ・漢字テスト3級㉞（課題提出） ・漢字練習課題（家庭学習課題提出） ・グループワークで積極的に発言する等、主体的に取り組んでいる様子が見受けられる。（机間巡視）</p>	○	○	6
<p>読む 豊かさや生物多様性</p> <p>【知識及び技能】 言葉の認識や説明の役割を理解し、論証や学術的な学習の基礎を築くために必要な語彙を増やし、文章の中で活用することで語感を磨き語彙を豊かにする。また、文や文章の効果的な組み立てや接続の仕方を深く理解し、表現力を高める。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 文章の種類を考慮しながら内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にして要旨を把握する力を養う。また、文章と資料の関係を理解し、書き手の意図を踏まえながら多面的・多角的な視点で文章の構成や表現を評価する力を育成する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 具体例を活用しながら筆者の思考をたどり、その考えを深く理解する力を養う。また、学習課題に沿って自分の経験を振り返り、日常生活の在り方についてまとめ、話し合いを通して理解を深める。</p>	<p>・指導事項 本文を通読しながら話の進め方に気づき、具体例を挙げて説明されている部分を確認し、「喫茶店の開店準備」に関する筆者の考えを理解する。楽器の演奏に関する考察を深め、「現在」「過去」「未来」の捉え方について筆者の考えを共有しながら話し合い、「行為の習慣化」について考察する。「痕跡の残らない行為」に対する筆者の考えを理解し、それについて話し合い、日常生活の在り方を振り返りながら四百字程度の文章にまとめて議論する。また、「紛らわしい漢字」を通読し、識別方法や間違えやすい熟語・同音異義語を確認する。</p>	○	○	<p>【知識・技能】 言葉の認識や説明の力を理解し、論証や学術的な学習に必要な語彙を増やし、文章の中で活用することで語感を磨くとともに、文や文章の組み立てや接続の仕方について深く学んでいる。</p> <p>【思考・判断・表現】 文章の種類を考慮しながら内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にして要旨を把握するとともに、資料との関係を理解しながら内容を整理する。また、書き手の意図を踏まえ、多面的な視点で文章の構成や表現を評価する力を養う。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ・ICTを使用した課題（課題提出） ・ワークシート（課題提出） ・漢字テスト3級㉞（課題提出） ・漢字練習課題（家庭学習課題提出） ・グループワークで積極的に発言する等、主体的に取り組んでいる様子が見受けられる。（机間巡視）</p>	○	○	8
<p>1学期 定期考査</p>					○	○	1
<p>読む カフェの開店準備</p> <p>【知識及び技能】 言葉の認識や説明の役割を理解し、論証や学術的な学習の基礎を築くために必要な語彙を増やし、文章の中で活用することで語感を磨き語彙を豊かにする。また、文や文章の効果的な組み立てや接続の仕方を深く理</p>	<p>・指導事項 本文を通読しながら話の進め方に気づき、具体例を挙げて説明されている部分を確認し、「喫茶店の開店準備」に関する筆者の考えを理解する。楽器の演奏に関する考察を深め、「現在」「過去」「未来」の捉え方について筆者の考えを共有しな</p>			<p>【知識・技能】 言葉の認識や説明の力を理解し、論証や学術的な学習に必要な語彙を増やし、文章の中で活用することで語感を磨くとともに、文や文章の組み立てや接続の仕方について深く学んでいる。</p> <p>【思考・判断・表現】 文章の種類を考慮しながら内容や構成、論理</p>			

	<p>解し、表現力を高める。 【思考力、判断力、表現力等】 文章の種類を考慮しながら内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にして要旨を把握する力を養う。また、書き手の意図を踏まえながら多面的・多角的な視点で文章の構成や表現を評価する力を育成する。 【学びに向かう力、人間性等】 具体例を活用しながら筆者の思考をたどり、その考えを深く理解する力を養う。また、学習課題に沿って自分の経験を振り返り、日常生活の在り方についてまとめ、話し合いを通して理解を深める。</p>	<p>が話し合い、「行為の習慣化」について考察する。「痕跡の残らない行為」に対する筆者の考えを理解し、それについて話し合い、日常生活の在り方を振り返りながら四百字程度の文章にまとめて議論する。また、「紛らわしい漢字」を通読し、識別方法や間違えやすい熟語・同音異義語を確認する。</p>	○	○	○	<p>の展開を的確に捉え、論点を明確にして要旨を把握するとともに、資料との関係を理解しながら内容を整理する。また、書き手の意図を踏まえ、多面的な視点で文章の構成や表現を評価する力を養う。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ICTを使用した課題（課題提出） ・ワークシート（課題提出） ・漢字テスト3級⑥（課題提出） ・漢字練習課題（家庭学習課題提出） ・グループワークで積極的に発言する等、主体的に取り組んでいる様子が見受けられる。（机間巡視）</p>	○	○	○	8
	<p>書く 図表の読み取り方 資料を活用して論述しよう 【知識及び技能】 文章の構成を理解し、論理的に組み立てる力を養う。主張と根拠の関係を正しく把握し、論理的な議論を展開する。情報を整理・階層化し、適切に活用するスキルを習得する。 【思考力、判断力、表現力等】 情報を収集・整理し、目的に合った題材を選定する。信頼性のある情報を基に論理的な主張を構築し、適切な根拠を示して説得力を高める。文章の構成や表現を工夫し、明確で伝わりやすい文章を書く力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 テーマに沿った資料を収集・整理し、論点を設定する。資料を評価しながら学習の方向性を定め、自分の意見を明確に論述する。</p>	<p>・指導事項 図表の読み方を学び、複数の資料を関連づけて分析する方法を習得する。 論題の設定：SDGsなどのテーマから論題を決定し、資料を収集・整理する。 意見の整理：考察内容を整理し、論述に必要な枠組みを作成する。 小論文の作成：構成例に沿って文章を組み立て、明確な主張を展開する。 推敲・振り返り：文章を読み直し、グループで意見交換をしながら修正を行う。</p>	○	○	○	<p>【知識・技能】 文章の種類に応じた構成や論の展開を理解し、論理的に組み立てる力を養う。主張と根拠の関係を把握し、論理的な議論を展開する。情報を階層化・整理し、適切に活用するスキルを身につける。 【思考・判断・表現】 書き手の立場や論点を踏まえて情報を収集・整理し、目的に合った題材を選定する。情報の信頼性を確認し、論理的な主張を適切な根拠とともに展開する。文章の構成や表現を工夫し、論理的で明確に伝わる文章を作成する。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ICTを使用した課題（課題提出） ・ワークシート（課題提出） ・漢字テスト3級⑨（課題提出） ・漢字練習課題（家庭学習課題提出） ・グループワークで積極的に発言する等、主体的に取り組んでいる様子が見受けられる。（机間巡視）</p>	○	○	○	8
	定期考査						○	○		1
2 学 期	<p>読む ころ 問を立てる 【知識及び技能】 文章の種類を考慮しながら内容や構成、展開、描写の仕方を的確に捉え、語り手の視点や場面の設定、表現の特色を評価することで内容を深く解釈する力を養う。また、文章の構成や展開、表現技法を踏まえ、解釈の多様性について考察する姿勢を培う。 【思考力、判断力、表現力等】 文章の種類を考慮しながら内容や構成、展開、描写の仕方を的確に捉える力を養う。また、語り手の視点や場面の設定、表現の特色を評価しながら内容を深く解釈し、文章の構成や表現技法を踏まえて解釈の多様性について考察する力を育成する。 【学びに向かう力、人間性等】 登場人物の関係性や心情を丁寧に読み取り、粘り強く描写を分析することで、人の心のありようについて深く考察する力を養う。また、これまでの学習を生かしながら、自分の考えを整理し、話し合いを通して多様な視点を共有する姿勢を育成する。</p>	<p>・指導事項 本教材の学習では、夏目漱石『ころ』の内容を深く理解しながら、登場人物の関係性や心情を的確に捉え、物語の構造を整理する。段階的に本文を読み進めながら、Kと「私」の心理的なやりとりや決断、行動の意味を探る。また、語り手の視点や場面の設定、表現技法を評価しながら作品の主題を考察し、読書を通じて人間の心のありようについて考えを深める。文学の言語文化の特質を理解しながら、表現の豊かさや解釈の多様性について議論し、自分の考えを話し合う。</p>	○	○	○	<p>【知識・技能】 言葉の力を理解し、語彙を豊かにしながら文章表現を磨くことを目的とする。文学の技法や日本語の特質を学び、読書を通じて人間・社会・自然への視点を広げる。 【思考・判断・表現】 文章を読む際に、種類や構成・描写を正確に理解し、語り手の視点や表現を評価することで内容を解釈する。また、文章の展開や表現技法を考慮し、解釈の多様性について考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ICTを使用した課題（課題提出） ・ワークシート（課題提出） ・漢字テスト3級⑧（課題提出） ・漢字練習課題（家庭学習課題提出） ・グループワークで積極的に発言する等、主体的に取り組んでいる様子が見受けられる。（机間巡視）</p>	○	○	○	15
	定期考査						○	○		1
	<p>未来のありか 【知識及び技能】 言葉を認識・説明する力を育てる。 語彙力・文章表現力を伸ばす。 特別 二期、想像され、その後社会生活で</p>	<p>・指導事項 「未来」についての考察 「未来」は個々の意識の中で予想・</p>				<p>【知識・技能】 筆者の具体例や資料を通じて論旨を把握し、「未来」に関する主張を理解する。そのうえで、自分の見解を述べ、</p>				

<p>結果力と文章表現力を伸ばす。効果的な文章構成を学び活用する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 文章の内容や構成、論理展開を的確に捉え、要旨を把握する能力を育てる。書き手の意図を多角的に評価できる視点を身につける。</p> <p>題材に関連する情報を結びつけ、自分の考えを広げ深める力を育む。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 粘り強く筆者の示す具体例や資料から論旨をたどり、学習課題に沿って「未来」についての筆者の主張を踏まえたうえで、自分の考える「未来」について話し合い、自分自身の生き方についても考えを深めることができる。</p>	<p>「別・想像され、その仮社会土壌に共有される過程をたどる。万国博の例を通じて、未来が事前に想像される性質を理解する。</p> <p>「未来らしさ」は論の展開や構成の中で支持されており、具体例や要点を挙げて簡潔書きで示す。</p> <p>・困難な時代における読書役割 複雑な問題に向き合う現代において、読書が人々の思考を深め、生き方を導く重要な手段となる。</p> <p>筆者の示す具体例から、現代の状況を理解し、「未来」と「読書」の関係性を評価する。</p>	<p>○ ○ ○</p>	<p>に、日々自身の視点と生き方を振り返り、休め、話し合いを通じて考えを広げることを目指している。</p> <p>【思考・判断・表現】 文章の種類や構成、論理展開を踏まえて要旨を的確に把握し、多角的な視点で評価する。また、関連する情報を組み合わせ、自分の考えを広げ深める力を養う。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ・ICTを使用した課題（課題提出） ・ワークシート（課題提出） ・漢字テスト3級⑩（課題提出） ・漢字練習課題（家庭学習課題提出） ・グループワークで積極的に発言する等、主体的に取り組んでいる様子が見受けられる。（机間巡視）</p>	<p>○ ○ ○</p> <p>8</p>
<p>定期考査</p>				<p>○ ○</p> <p>1</p>
<p>3 学 期</p> <p>ロボットが隣人になるとき</p> <p>【知識及び技能】 言葉の認識や説明の役割を理解し、論証や学術的な学習の基礎を築くために必要な語彙を増やし、文章の中で活用することで語感を磨き語彙を豊かにする。また、文や文章の効果的な組み立てや接続の仕方を深く理解し、表現力を高める。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 文章の種類を考慮しながら内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にして要旨を把握する力を養う。また、書き手の意図を踏まえながら文章の構成や表現を多角的に評価し、人間・社会に関する内容を多様な視点や価値観と結び付け、新たな観点から自分の考えを深める力を育成する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 タイトルに象徴される筆者の考えを積極的に読み取り、これまでの学習を生かしながら自分の経験を振り返り、これからの生き方について深く考察する力を育成する。</p>	<p>・指導事項 哲学的な思考に沿って書かれた評論を読んで、人間の意志や自由について理解を深める。</p> <p>・「意志」「自由」という言葉の意味に注意しながら、本文を通読する。</p> <p>「この間には、単純な技術の問題ではなない。」とあるが、なぜそういえるのかを読み取る。</p> <p>・「近年のAIの発展はこのイメージを崩しつつある。」とは、どのようなことかを読み取る。</p> <p>・「『意志』と『欲求』を比較してみよう。」とあるが、意志と欲求はどのように異なるのか読み取り、まとめる。</p> <p>・「『意志』というのは約束に似ている」と筆者が考えるのはなぜか、読み取る。</p> <p>・「ロボットは社会的な存在になれるだろうか。」という問いに対する筆者の考えを読み取る。</p> <p>・「そうはならないだろう。」とあるが、ここで述べられているようなロボットが「自分の意志で自由に行動する」といえないのはなぜか読み取り、まとめる。</p> <p>・「対等の隣人」とあるが、どのような点で対等なのか、筆者の考えを読み取る。</p> <p>・「的確に表現するために」を読み、自分の考えを相手に的確に伝えるための表現について理解する。</p> <p>・1本文の論証について、任意の部分を選んで反論を考え、まとめる。</p> <p>・筆者が考えるような「自分の意志で自由に行動するロボット」が生まれることは望ましいと考えるかどうか、話し合う。</p> <p>・的確な表現の仕方について理解する</p>	<p>○ ○ ○</p>	<p>【知識・技能】 ・言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。</p> <p>・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通じて、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。</p> <p>【思考・判断・表現力】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にししながら要旨を把握している。</p> <p>・「読むこと」において、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。</p> <p>・「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】積極的に筆者の哲学的な思考を、「自由意志を持ったロボットを作ることができる」ことが可能か否かを考えることを通じて理解し、学習課題に沿って人間の意志や自由について考えを深め、意見を述べようとしている。</p>	<p>○ ○ ○</p> <p>15</p>
<p>合計</p>				
<p>72</p>				

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 国語 科目 近現代文学

教科：国語 科目：近現代文学 単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 1組～4組

教科担当者：

使用教科書：

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 近現代文学 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、もの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもちようとしている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
読む デューク 【知識及び技能】 文学作品の構成、表現技法、文体、描写の仕方等を的確に捉える力を身につける。読書を通して語彙力を向上させ、豊かな表現を習得する。関連事項を調査し、成果を文章にまとめ、効果的に発表するスキルを習得する。 【思考力、判断力、表現力等】 登場人物の心情の変化や出来事を深く読み取り、解釈する力を養う。解釈の多様性を考慮しながら、独自の意見や視点を論理的に表現できるようにする。物語の中で提示されるテーマやメッセージを踏まえ、人間や社会、自然に対する考えを深める。 【学びに向かう力、人間性等】 粘り強く考察し、学びを深めようとする姿勢を身につける。読書の意義とその効用を理解し、文学を通じて人間性を豊かにする。他者の意見を尊重し、多様な視点に柔軟に対応できる態度を育む。	・指導事項 ・「私」と「少年」の交流を通じて心理変化とデュークの死を受け入れる過程を読み取る。 ・物語の構成、描写、表現技法を理解し、多様な解釈を養う。 ・社会や自然に対する感じ方を深める。 ・関連事項を調べ、考察をまとめる。表現力を磨く。 ・悲しみの表現を読み取り、自分の意見を積極的に発表する。	【知識・技能】 物語の構成や描写、表現技法を理解し、多様な視点からの解釈を養う。「私」と「少年」の交流を通じて心理変化やデュークの死にまつわる過程を読み取る力を身につける。語彙力を向上させ、関連事項を調査し成果を文章にまとめる能力を育成する。 【思考・判断・表現】 心情の変化や悲しみの表現を深く考察し、自分なりの意見を論理的に示す力を磨く。解釈の多様性に触れ、幅広い視点を取り入れながら独自の考えを形成する。主人公の感情を通じて人間や自然への理解を深め、これを効果的に表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ICTを使用した課題（課題提出） ・ワークシート（課題提出） ・グループワークで積極的に発言する等、主体的に取り組んでいる様子が見受けられる。（机間巡視）	○	○	○	8
読む 調律師のみみ子さん 【知識及び技能】 のみみさんの気持ちの変化：彼女の身に起こった出来事を通して、感情の変化を具体的に読み取る。内容や構成、展開：物語の構成や展開を分析し、場面設定や描写の仕方を理解する。表現の特色：作品の中で使われている表現技法や文体の特徴を理解する。語彙の増強：読書を通じて新しい語句や表現を学び、語彙を豊かにする。 【思考力、判断力、表現力等】 解釈の多様性：作品の解釈には多様な視点があることを認識し、他人の意見や解釈も参考にしながら、自分の考えを深める。関連事項の調査：作品に関連する歴史的背景や文化的要素について調べ、その知識をもとに作品の理解を深める。老人が「のみみさん」の調律師に求めていたことについての考察：自分の考えをまとめて示す。 【学びに向かう力、人間性等】 読書の意義と効用：読書がどのように自分の視野を広げ、感受性を豊かにするかを理解する。のみみさんの心情の変化を粘り強く読み取る姿勢：彼女の身に起こった出来事を読み取り、その心情の変化を粘り強く読み取ろうとする。作品に表れているもの見方、感じ方、考え方の理解：作品の解釈を踏まえて、人間、社会、自然などに対するもの見方、感じ方、考え方を深める姿勢を養う。	・指導事項 ・時間の経過とともに登場人物の心情と行動の変化を追い、題名の意味を考える。 ・内容や構成、展開、場面設定、描写の仕方、表現の特色を捉え、解釈の方法を学び、多様な視点を考察する。 ・作品を通じて人間、社会、自然に対する見方や感じ方を深める。 ・作品に関連する事項を調べ、成果を文章にまとめ発表する。 ・文学的な文章の種類、特徴、表現技法を理解する。 ・語彙を増やし、豊かにする。 ・読書の意義と効用を理解する。 ・登場人物の心情と行動の変化を粘り強く読み取り、題名の意味を考える。 ・最後の場面を脚本に書き換え、印象の違いを考える。	【知識及び技能】 のみみさんの気持ちの変化：彼女の身に起こった出来事を通して、感情の変化を具体的に読み取ることができる。 内容や構成、展開：物語の構成や展開を分析し、場面設定や描写の仕方を理解することができる。 表現の特色：作品の中で使われている表現技法や文体の特徴を理解することができる。 語彙の増強：読書を通じて新しい語句や表現を学び、語彙を豊かにすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 解釈の多様性：作品の解釈には多様な視点があることを認識し、他人の意見や解釈も参考にしながら、自分の考えを深めることができる。 関連事項の調査：作品に関連する歴史的背景や文化的要素について調べ、その知識をもとに作品の理解を深めることができる。 老人が「のみみさん」の調律師に求めていたことについての考察：自分の考えをまとめて示すことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ICTを使用した課題（課題提出） ・ワークシート（課題提出） ・グループワークで積極的に発言する等、主体的に取り組んでいる様子が見受けられる。（机間巡視）	○	○	○	8
読む 相棒 【知識及び技能】 登場人物の心情と行動の変化を時間の経過とともに追い、題名の意味を考える。内容や構成、展開、場面設定、描写の仕方、表現の特色を捉え、解釈の方法を学ぶ。文学的な文章の種類、特徴、表現技法を理解する。 語彙を増やし、豊かにする。 【思考力、判断力、表現力等】 解釈の多様性を考察し、多様な視点を学ぶ。作品に関連する事項を調べ、成果を文章にまとめ発表する。 最後の場面を脚本に書き換え、印象の違いを考える。 【学びに向かう力、人間性等】 読書の意義と効用を理解する。登場人物の心情と行動の変化を粘り強く読み取り、題名の意味を考える。作品を通じて人間、社会、自然に対する見方や感じ方を深める。	・指導事項 ・時間の経過とともに登場人物の心情と行動の変化を追い、題名の意味を考える。 ・内容や構成、展開、場面設定、描写の仕方、表現の特色を捉え、解釈の方法を学ぶ。 ・作品を通じて人間、社会、自然に対する見方や感じ方を深める。 ・作品に関連する事項を調べ、成果を文章にまとめ発表する。 ・文学的な文章の種類、特徴、表現技法を理解する。 ・語彙を増やし、豊かにする。 ・読書の意義と効用を理解する。 ・登場人物の心情と行動の変化を粘り強く読み取り、題名の意味を考える。 ・最後の場面を脚本に書き換え、印象の違いを考える。	【知識及び技能】 登場人物の心情と行動の変化：時間の経過とともに追い、題名の意味を考えることができる。 内容や構成、展開：場面設定、描写の仕方、表現の特色を捉え、解釈の方法を学ぶことができる。 文学的な文章の理解：種類、特徴、表現技法を理解することができる。 語彙の増強：語彙を増やし、豊かにすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 解釈の多様性：多様な視点を学び、考察することができる。 関連事項の調査：作品に関連する事項を調べ、成果を文章にまとめ発表することができる。 脚本の書き換え：最後の場面を脚本に書き換え、印象の違いを考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ICTを使用した課題（課題提出） ・ワークシート（課題提出） ・グループワークで積極的に発言する等、主体的に取り組んでいる様子が見受けられる。（机間巡視）	○	○	○	10
定期考査			○	○		1

<p>読む ころろ 問いを立てる 【知識及び技能】 文章の種類を考慮しながら内容や構成、展開、描写の仕方を的確に捉え、語り手の視点や場面の設定、表現の特色を評価することで内容や場面を深く理解する力を養う。また、文章の構成や展開、表現技法を踏まえ、解釈の多様性について考察する姿勢を培う。 【思考力、判断力、表現力等】 文章の種類を考慮しながら内容や構成、展開、描写の仕方を的確に捉える力を養う。また、語り手の視点や場面の設定、表現の特色を評価しながら内容を深く理解し、文章の構成や表現技法を踏まえて解釈の多様性について考察する力を育成する。 【学びに向かう力、人間性等】 登場人物の関係性や心情を丁寧に読み取り、粘り強く描写を分析することで、人の心のありようについて深く考察する力を養う。また、これまでの学習を生かしながら、自分の考えを整理し、話し合いを通して多様な視点を共有する姿勢を育成する。</p>	<p>・指導事項 本教材の学習では、夏目漱石『ころろ』の内容を深く理解しながら、登場人物の関係性や心情を的確に捉え、物語の構造を整理する。段階的に本文を読み進めながら、Kと「私」の心理的なやりとりや決断、行動の意味を探る。また、語り手の視点や場面の設定、表現技法を評価しながら作品の主題を考察し、読書を通して人間の心のありようについて考えを深める。文学の言語文化の特質を理解しながら、表現の豊かさや解釈の多様性について議論し、自分の考えを話し合う。</p>	<p>【知識・技能】 言葉の力を理解し、語彙を豊かにしながら文章表現を磨くことを目的とする。文学の技法や日本語の特質を学び、読書を通して人間・社会・自然への視点を広げる。 【思考・判断・表現】 文章を読む際に、種類や構成・描写を正確に理解し、語り手の視点や表現を評価することで内容を解釈する。また、文章の展開や表現技法を考慮し、解釈の多様性について考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ICTを使用した課題（課題提出） ・ワークシート（課題提出） ・グループワークで積極的に発言する等、主体的に取り組んでいる様子が見受けられる。（机間巡視）</p>	○	○	○	15
<p>書く 物語を創造する（物語を発想する力） 【知識及び技能】 物語の意味を考え、表現に注意して創造できる。文体や技法に注意して心情や情景を描写できる。構成や展開を工夫して読み手の関心を得られる。文体や修辭を理解し、読み手を引きつける工夫ができる。言語文化の特質を理解できる。言葉の働きを理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 学習課題に沿って物語を創作できる。他の生徒の物語を評価の観点に沿って批評できる。 【学びに向かう力、人間性等】 批評を前向きに捉え、物語の特長や課題を明らかにできる。</p>	<p>・指導事項 ・物語の意味を考え、表現に注意して創造する。 ・文体や技法に注意して心情や情景を描写する。 ・構成や展開を工夫して読み手の関心を得る。 ・文体や修辭を考慮して読み手を引きつける工夫を学ぶ。 ・文体の特徴や表現技法を理解し、活用する。 ・言語文化の特質を理解できる。 ・言葉の働きを理解する。 ・学習課題に沿って物語を創作する。 ・他の生徒の物語を評価の観点に沿って批評する。 ・批評を前向きに捉え、物語の特長や課題を明らかにする。</p>	<p>【知識及び技能】 ・物語の意味を考え、表現に注意して創造できる。 ・文体や技法に注意して心情や情景を描写できる。 ・構成や展開を工夫して読み手の関心を得られる。 ・文体や修辭を考慮して読み手を引きつける工夫ができる。 ・文体の特徴や表現技法を理解し、活用できる。 言語文化の特質を理解できる。 ・言葉の働きを理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・学習課題に沿って物語を創作できる。 ・他の生徒の物語を評価の観点に沿って批評できる。 ・批評を前向きに捉え、物語の特長や課題を明らかにできる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ICTを使用した課題（課題提出） ・ワークシート（課題提出） ・漢字テスト3級⑨（課題提出） ・漢字練習課題（家庭学習課題提出） ・グループワークで積極的に発言する等、主体的に取り組んでいる様子が見受けられる。（机間巡視）</p>	○	○	○	14
<p>定期考査</p>			○	○		1
<p>読む 卒業（魚住直子） 文学のしるべ 【知識・技能】 文学的な文章の種類や特徴について理解を深める。文学的な文章における文体の特徴や表現の技法を理解する。語彙を豊かにし、語句の量を増やす。 【思考・判断・表現】 寿々の仕事に向き合う態度や友人への思いの変化を読み取り、主人公にとっての「卒業」の意味を考える。作品の内容や構成、展開、場面設定、描写、表現の特色を理解し、解釈の多様性を考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 読書の意義と効用を理解する。作品に関連する事項を調べ、その成果を文章にまとめたり発表したりする方法を学ぶ。解釈の多様性について考察する姿勢を養い、寿々をめぐる人間関係について共感できる表現を探し、その理由をわかりやすく発表する。</p>	<p>・指導事項 ・主人公の仕事に向き合う態度と友人への思いの変化を捉え、「卒業」の意味を考察する。 ・作品の内容や構成、展開、場面設定、描写、表現の特色を理解し、解釈の多様性を考察する。 ・作品に表れる見方、感じ方、考え方を学び、人間、社会、自然に対する見方を深める。 ・作品に関連する事項を調べ、成果を文章にまとめ発表する方法を学ぶ。 ・文学的な文章の種類、特徴、文体、表現技法を理解する。 ・語彙を豊かにし、語句の量を増やす。 ・読書の意義と効用を理解する。 ・寿々の態度や思いの変化を読み取り、「卒業」の意味を考える。 ・寿々をめぐる人間関係に共感できる表現を探し、その理由を発表する。</p>	<p>【【知識・技能】 ・文学的な文章の種類や特徴について理解できる。 ・文学的な文章における文体の特徴や表現の技法を理解できる。 ・語彙を豊かにし、語句の量を増やすことができる。 【思考・判断・表現】 ・寿々の仕事に向き合う態度や友人への思いの変化を読み取ることができる。 主人公にとっての「卒業」の意味を考察することができる。 ・作品の内容や構成、展開、場面設定、描写の仕方、表現の特色を的確に捉え、内容を解釈することができる。 ・作品に表れている見方、感じ方、考え方を捉え、人間、社会、自然に対する見方や感じ方を深めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ICTを使用した課題（課題提出） ・ワークシート（課題提出） ・漢字テスト3級⑩（課題提出） ・漢字練習課題（家庭学習課題提出） ・グループワークで積極的に発言する等、主体的に取り組んでいる様子が見受けられる。（机間巡視）</p>	○	○	○	12
<p>定期考査</p>			○	○		1
						合計
						70

高等学校 令和8年度(3学年用) 教科 地理歴史 科目 地理総合

教科: 地理歴史 科目: 地理総合 単位数: 2 単位

対象学年組: 第3学年 1組～6組

教科担当者:

使用教科書:

教科 地理歴史

の目標:

【知識及び技能】 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から適切且つ効果的に調べまとめる技能を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を概念などを活用して多角的に考察し、社会にみられる課題の解決に向け構想する力および論じる力を培う。

【学びに向かう力、人間性等】 地理や歴史に関わる諸事項についてよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養い、他国の文化を尊重することの大切さなどを探究する。

科目 地理総合

の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
地理に関する諸事項に関して、世界の生活文化の多様性及び防災への取り組みなどを理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を調べまとめる技能を身につける。	地理に関する事象の意味や意義、特色、相互連関について、位置・分布・場所・人間と自然環境との相関、空間的相関、地域性に着目し、概念考察や議論する力を培う。	地理に関する諸事象に関して、より良い社会の在り方を構想し、その課題を主体的に探究していく態度を引き出し、伸ばしていく。世界の諸地域について理解・尊重する姿勢を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数		
1 学期	1部: 地図や地理情報システムでとらえる現代社会 ① 地図や地理情報システムと現代の世界 【知識及び技能】 地球儀や様々な図法の地図から現代世界の姿を読み取ることを通じて、地図や地理情報システムの役割や有用性を理解する。地理情報システム技能を習得する。 【思考力、判断力、表現力等】 各種の地図にはどのような特徴があるのかや、地図や地理情報システムはどのように利用できるのかについて、多面的・多角的に考察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 目的に応じた地図や地理情報システムの活用方法について、主体的に追究し、課題を見いだす。	【指導事項】 ① 地球の位置と地上の現象 ② 経度の違いと時差 ③ 球体と平面の世界 【教材】 地図帳・教科書・プリント 【一人1台端末の活用】 地理情報システムを使った調べ学習と発表	【知識・技能】 地球儀や様々な図法の地図から現代世界の姿を読み取ることを通じて、地図や地理情報システムの役割や有用性を理解している。地球儀や様々な図法の地図から現代世界の姿を読み取る技能や、地図や地理情報システムを利用する技能を身につけている。 【思考・判断・表現】 各種の地図にはどのような特徴があるのかや、地図や地理情報システムはどのように利用できるのかについて、多面的多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 目的に応じた地図や地理情報システムの活用方法について、主体的に追究し、課題を見いだしている。	○	○	○	9	
	定期考査	1部: 地図や地理情報システムでとらえる現代社会 ② 結びつきを深める現代社会 【知識及び技能】 世界を構成する国家の領域の定め方や、地図を通して世界の国々の結びつき方、交通、通信、人の移動の特徴を理解する。国家領域、世界の国々の結びつき、読図技能を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 国家の領域を知りどのような領土問題があるのかや世界の国々の結びつきについて地図を通して多面的多角的に思考し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 国家の領域や領土問題、世界の国々の結びつき等地図を通し主体的に追究し課題を見いだす。	【指導事項】 ① 国家の領域と国境 ② 地図から見る日本の位置と領域 ③ グローバル化と多様な結びつき ④ 拡大する貿易 ⑤ 世界を結ぶ交通・通信 ⑥ 観光と人の移動のグローバル化 【教材】 地図帳・教科書・プリント 【一人1台端末の活用】 地理情報システムを使った調べ学習と発表	【知識・技能】 世界を構成する国家の領域の定め方、地図を通して世界の国々の結びつき方、交通、通信、人の移動の特徴を理解している。国家の領域や世界の国々の結びつき、交通、通信、人の移動の特徴を見いだすための、読図の技能を身につけている。 【思考・判断・表現】 国境の領域はどのように定められており、どのような交通、通信、人の移動の特徴があるのかについて、地図を通して多面的多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 国家の領域の定め方や領土問題、世界の国々の結びつき方、交通、通信、人の移動の特徴について、地図を通して主体的に追究し、課題を見いだしている。	○	○	○	11
	定期考査			○	○	○	1	
2 学期	2部: 国際理解と国際協力 ①生活文化の多様性と国際理解 【知識及び技能】 世界の多様な生活文化が自然環境や社会環境を背景に互いに影響を及ぼし合いながら形成されてきたことを理解し、地理的見方・考え方を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 事例研究を通して、地形や気候、産業とその発展、歴史、人の移動、他地域との結びつきに着目しながら世界の生活文化の多様性が互いに形成されてきたか、多面的多角的に考察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 事例研究活動を通じ、世界の多様な生活文化を尊重し、共生を図っていくことについて、主体的に探究し、課題を見いだす。	【指導事項】 ① 世界の地形と人々の生活 ② 世界の気候と人々の生活 ③ 世界の産業と人々の生活 ④ 世界の宗教・民族・言語と人々の生活 ⑤ 多様な生活文化と地理的環境 ⑥ 事例研究: 東アジア・東南アジア・南アジア・中央アジア・西アジア・北アフリカ・サハラ以南アフリカ・ヨーロッパ・ロシア・アンゴラアメリカ・ラテンアメリカ・オセアニア 【教材】 地図帳・教科書・プリント 【一人1台端末の活用】 地理情報システム等のWebを使った調べ学習と発表	【知識・技能】 世界の多様な生活文化が、自然環境や社会環境を背景に、互いに影響を及ぼし合いながら形成されてきたことを理解している。世界の生活文化の多様性の背景となるものや、世界の生活文化の相互関係を見いだすための、地理的見方・考え方を身につけている。 【思考・判断・表現】 地形や気候、産業とその発展、歴史、人の移動、他地域との結びつきに着目しながら、世界の生活文化の多様性がどのように形成されてきたのかについて、多面的多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 世界の多様な生活文化を尊重し、共生を図っていくことについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。	○	○	○	17	
	定期考査	2部: 国際理解と国際協力②地理的課題と国際協力 【知識及び技能】 地理的課題が生じている場所や要因、課題どうしが相互に関係していることを理解し、それを見いだすための地理的見方・考え方を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 地理的課題がどこでどのように生じているのか、また、解決のためにどのような取り組みがなされているのかについて、事例研究を通して多面的多角的に考察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 持続可能な開発を実現するために必要な取り組みや国際協力のあり方について、主体的に追究し、課題を見いだす。	【指導事項】 ① 複雑に絡み合う地理的課題 ② 人口問題 ③ 食糧問題 ④ 都市・居住問題 ⑤ 感染症・衛生問題 ⑥ 資源・エネルギー問題 ⑦ 地球環境問題 【教材】 地図帳・教科書・プリント 【一人1台端末の活用】 地理情報システム等のWebを使った調べ学習と発表	【知識・技能】 地理的課題が生じている場所や要因、課題どうしが相互に関係していることを見いだすための、地理的見方・考え方を身につけている。 【思考・判断・表現】 地理的課題がどこで、どのように生じているのかや、解決のためにどのような取り組みがなされているのかについて、多面的多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 持続可能な開発を実現するために必要な取り組みや国際協力のあり方について、主体的に追究し、課題を見いだしている。	○	○	○	15
	定期考査			○	○	○	1	
3 学期	3部: 持続可能な地域づくりと私たち ①自然環境と防災 ②生活圏の調査と地域の展望 【知識及び技能】 ①自然災害の場所・要因、防災への取り組みを知り、そのための地理的見方や考え方を身につける。 ②生活圏の調査で仮説の立て方や調査結果検証の方法、発表の仕方を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 ①地理的課題がどこでどう生じているのかやその解決のためにどのような取り組みがなされているのかを多面的多角的に考察し表現する。 ②事前調査結果から仮説を立て結果に基づき分析・整理することや、事例比較について考察し表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ①持続可能な開発を実現するために必要な取り組みや国際協力のあり方を主体的に追究し課題を見いだす。 ②生活圏調査の結果を地域に還元し、よりよい社会を築いていくことについて主体的に追究し課題を見いだす。	【指導事項】 ① 日本 の自然環境 ② 地震・津波や火山活動による災害と防災 ③ 気象災害と防災 ④ 自然災害への備え ⑤ 生活圏の調査と地域の展望(地理的調査テーマ設定・調査結果分析と仮説検証・まとめと地域参画) 【教材】 地図帳・教科書・プリント 【一人1台端末の活用】 地理情報システム等のWebを使った調べ学習と発表	【知識・技能】 ①自然環境と防災: 自然災害が生じる場所と要因、日本の自然災害の特徴、生活の中みられる防災・減災への取り組みを理解している。自然災害の発生場所や要因、日本の自然災害の特徴、生活の中みられる防災・減災への取り組みをみいだすための、地理的見方・考え方を身につけている。 ②生活圏調査: 生活圏の調査にあたり仮説の立て方や調査結果の検証方法、発表の仕方を理解している。 【思考・判断・表現】 ①自然環境と防災: どのような自然災害がどのような場所が生じているのかや、日本の自然災害にはどのような特徴があるのか、どのような防災・減災への取り組みがなされているのかについて、多面的多角的に考察し表現している。 ②生活圏の調査: 調査・仮説・結果分析・整理と比較・発表が多面的多角的に考察され表現されている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①自然環境と防災: 自然環境には災害と恩恵の両側面があり、人々が生活していくうえで必要な防災・減災に向けた備えについて、主体的に追究し課題を見いだしている。 ②生活圏の調査: 調査結果に基づいて地域還元を想定し、よりよい社会の構築に向け主体的に課題を見いだしている。	○	○	○	13	
	定期考査			○	○	○	1	
						合計	70	

年間授業計画 様式例

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 地歴科 科目 日本史探究

教科： 地理歴史 科目： 日本史探究 単位数： 4 単位
 対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 6 組（必修選択）
 教科担当者：
 使用教科書：
 教科 地理

- 【知識及び技能】日本及び世界の歴史を理解し、諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
- 【思考力、判断力、表現力等】地理や歴史に関わる事象の特色や相互の関連を考察し、それを説明したり議論したりする力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】よりよい社会の実現を視野に、日本国民としての自覚・世界の多様な生活文化を尊重する態度を養う。

科目 日本史探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそれの中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	近現代の歴史の変化に関わる意味や意義を時期や年代、推移、比較、現在のつながりに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史的な課題を把握し解決を視野に入れて構想する力や、構想したことを説明したり、議論したりする力を養う。	よりよい社会の実現を視野に課題を解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 単元 先史・古代の日本と東アジア 【知識及び技能】 人類が過去をどのように知り、伝えてきたのか理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 道具の変化の背景にある社会・環境の変化に関して考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 「時代を通観する問」を意識する。	・指導事項 先史社会の生活と文化 ・教材 教科書 ワーク ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 定期考査・提出物 【思考・判断・表現】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物 【主体的に学習に取り組む態度】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物	○	○	○	6
	B 単元 先史・古代の日本と東アジア 【知識及び技能】 平安時代のあいつく遷都や征夷、政治改革は日本の律令制にどのような変化をもたらしたか理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 資料から推論する。 【学びに向かう力、人間性等】 現代と歴史の関連を自覚する。	・指導事項 古代社会の形成と展開 ・教材 教科書 ワーク ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 定期考査・提出物 【思考・判断・表現】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物 【主体的に学習に取り組む態度】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
	C 単元 中世社会の展開 【知識及び技能】 鎌倉幕府の政権としての特徴を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 多角的視点からの判断・表現を涵養する。 【学びに向かう力、人間性等】 資料を活用し、偏見にとらわれず分析する力を身につける。	・指導事項 武家政権の成立と朝廷 ・教材 教科書 ワーク ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 定期考査・提出物 【思考・判断・表現】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物 【主体的に学習に取り組む態度】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物	○	○	○	8
D 単元 中世社会の展開 【知識及び技能】 モンゴルの襲来に我が国の社会がどのように変化したのかを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 多角的視点からの判断・表現を涵養する。 【学びに向かう力、人間性等】 資料を活用し、偏見にとらわれず分析する力を身につける。	・指導事項 モンゴルの襲来と社会の変貌 ・教材 教科書とワーク ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 定期考査・提出物 【思考・判断・表現】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物 【主体的に学習に取り組む態度】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物	○	○	○	8	
定期考査			○	○		1	
2 学 期	C 単元 武家支配の広がりや国際交流 【知識及び技能】 近代欧米諸国の進出に我が国がどのように対応したのかを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 多角的視点からの判断・表現を涵養する。 【学びに向かう力、人間性等】 他文化の視点を尊重する	・指導事項 武家支配の広がりや国際交流 ・教材 教科書とワーク ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 定期考査・提出物 【思考・判断・表現】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物 【主体的に学習に取り組む態度】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物	○	○	○	15
				○	○		1
	D 単元 近世の日本と世界 【知識及び技能】 欧米諸国の進出に我が国がどのように対応したのかを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 多角的視点からの判断・表現を涵養する。 【学びに向かう力、人間性等】 他文化の視点を尊重する。	・指導事項 地球的世界と日本 ・教材 教科書とワーク ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 定期考査・提出物 【思考・判断・表現】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物 【主体的に学習に取り組む態度】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物	○	○	○	15
定期考査			○	○		1	

3 学 期	<p>E単元 近現代の地域・日本と世界</p> <p>【知識及び技能】 近代欧米諸国の進出にアジア諸国がどのように対応したのかを理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 現代のアジア諸国に欧米がどう影響を与えたか考察し、表現できる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 19世紀後半が近代日本の基礎であることを自覚する。</p>	<p>・指導事項 東アジア世界のなかの明治政府</p> <p>・教材 教科書とワーク</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】 定期考査・提出物</p> <p>【思考・判断・表現】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物</p>	○	○	○	4
	<p>F単元 帝国主義の展開とアジア</p> <p>【知識及び技能】 列強諸国のアジア分割と日本の対応を理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 現代のアジア諸国に欧米がどう影響を与えたか考察し、表現できる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 20世紀初頭の日本が世界にどのような影響を与えたかを自覚する。</p>	<p>・指導事項 両大戦間期の日本</p> <p>・教材 教科書とワーク</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】 定期考査・提出物</p> <p>【思考・判断・表現】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 授業内の発言・態度・定期考査・提出物</p>	○	○	○	4
	定期考査			○	○		合計

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 数学科 科目 数学Ⅱβ

教科：数学科 科目：数学Ⅱβ 単位数：2 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 4 組

教科担当者：

使用教科書：

教科 数学科 の目標：

【知識及び技能】問題を正確に理解し、定義や定理等をもとに式を立てることで適切に計算できる。

【思考力、判断力、表現力等】公式を暗記して計算するだけでなく、その式の成り立ちについて理解している。

【学びに向かう力、人間性等】授業に積極的であり、家庭学習用の課題についても意欲的に取り組んでいる。

科目 数学Ⅱβ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
三角関数、指数関数・対数関数、微分法と積分法について、基礎的な知識の習得を目指し、それを活用する力を身に付ける。	三角関数、指数関数・対数関数、微分法と積分法について、事象を数学的に考察する能力や、式の成り立ちについて理解し、またそれを説明できる。	三角関数、指数関数・対数関数、微分法と積分法について、興味・関心をもてるとともに、課題に対しても積極的に取り組める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
1 学期	三角関数 角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できるようにする。	第4章 三角関数 第1節 三角関数 1 一般角 2 弧度法 3 三角関数 4 三角関数の性質 単元テスト	【関心・意欲・態度】 角 $\theta + 2n\pi$ の動径と角 θ の動径との関係を調べようとする。 【数学的な見方や考え方】 三角比の定義を一般化して、三角関数の定義を考察できる。 【数学的な技能】 弧度法で表された角の三角関数の値を、三角関数の定義によって求めることができる。 【知識・理解】 三角関数の相互関係を理解し、それらを利用して様々な値を求めたり、式変形をしたりすることができる。	○	○	○	11
	定期考査		○	○		1	
	三角関数（続き） 加法定理を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	5 三角関数のグラフ 6 三角関数を含む方程式、不等式 第2節 加法定理 7 加法定理 8 加法定理の応用 9 三角関数の合成 単元テスト	【関心・意欲・態度】 $y=\sin x$ と $y=\cos x$ のグラフが同じ形の曲線であることに興味、関心をもつ。 【数学的な見方や考え方】 三角関数の性質を、グラフの特徴とともに考察することができる。 【数学的な技能】 三角関数の相互関係を利用して、三角関数を含む2次方程式を解くことができる。 【知識・理解】 いろいろな三角関数のグラフのかき方と周期の求め方を理解している。	○	○	○	12
定期考査		○	○		1		
2 学期	指数関数・対数関数 指数関数、対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 微分法と積分法 微分係数や導関数の意味について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	第5章 指数関数と対数関数 1 指数法則 2 指数関数とそのグラフ 3 対数 4 対数の性質 5 対数関数とそのグラフ 6 常用対数 単元テスト 第6章 微分法と積分法 第1節 微分法 1 平均変化率と微分係数 2 導関数 3 いろいろな関数の微分	【関心・意欲・態度】 指数と対数との相互関係に興味・関心をもつ。 【数学的な見方や考え方】 指数法則と対数の定義から、対数の性質を考察することができる。 【数学的な技能】 対数の性質に基づいた種々の対数の値の計算ができる。 【知識・理解】 対数の性質に基づいた種々の対数の値の計算ができる。	○	○	○	13
	定期考査		○	○		1	
	微分法と積分法（続き） 積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	4 接線 5 関数の増減 6 関数の極大・極小 7 関数の最大・最小 8 方程式・不等式への応用 単元テスト 第2節 積分法 9 不定積分 10 不定積分の計算	【関心・意欲・態度】 曲線外の点から曲線に引いた接線の方程式を求めようとする。 【数学的な見方や考え方】 平均変化率の定義を理解し、それを求めることができる。 【数学的な技能】 曲線上にない点Cから曲線に接線を引くとき、接点Aにおける接線が点Cを通ると読み替えることができる。 【知識・理解】 導関数を利用して微分係数が求められることを	○	○	○	13

		理解している。 接線の方程式の公式を利用して、接線の方程式を求めることができる。				1
3 学 期	微分法と積分法(続き) 積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	11 定積分 12 定積分の性質 13 面積 単元テスト	【関心・意欲・態度】 面積が定積分で表されることに興味・関心を持ち、考察しようとする。 【数学的な見方や考え方】 面積を求める際には、グラフの上下関係、積分範囲などを、図をかいて考察することができる。 【数学的な技能】 直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求めることができる。 【知識・理解】 定積分の公式や性質を理解し、それを利用する定積分の計算方法を理解している。			16
	定期考査					1
						合計
						70

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 数学科 科目 数学演習

教科：数学科 科目：数学演習 単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 1組～4組

教科担当者：

使用教科書：

教科 数学科 の目標：

【知識及び技能】問題を正確に理解し、定義や定理等をもとに式を立てることで適切に計算できる。

【思考力、判断力、表現力等】公式を暗記して計算するだけでなく、その式の成り立ちについて理解している。

【学びに向かう力、人間性等】授業に積極的であり、家庭学習用の課題についても意欲的に取り組んでいる。

科目 数学演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数学ⅠAの基本的な公式・定理・解法を理解し、演習問題に適切に適用できる力を養う。	問題解決に向けて筋道を立てて考え、自らの考えを数式や図を用いて的確に表現できる力を育成する。	粘り強く課題に取り組み、学びに前向きな態度や協働的な姿勢を身につける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	数と式 式の計算規則を正確に理解し、文字式を用いた計算や式の変形ができる。 因数分解や展開の技術を身につけ、方程式の解法に応用できる。 複雑な式の扱いを通じて論理的な考え方を深める。	式の計算と展開 因数分解の基本と応用 文字式の計算規則 式の値の計算 式の変形（移項・通分・分配法則など）	【関心・意欲・態度】 自分で積極的に計算練習に取り組み、解法を探究しようとする姿勢。 【数学的な見方や考え方】 計算過程の意味や式の変形の意図を理解し、問題解決のために活用できる。 【数学的な技能】 正確かつ効率的に式の計算や因数分解を行う技能。 【知識・理解】 計算規則や因数分解の公式の意味と使い方を理解している。	○	○	○	11
	定期考査			○	○		1
	2次関数 2次関数の基本的な形とグラフの特徴を理解し、変化の様子を正しく表現できる。 平方完成を使って頂点を求め、2次関数の最大・最小問題に対応できる。 2次方程式との関係を理解し、図形や実生活問題に応用できる。	2次関数の定義とグラフ 平方完成の手法 頂点・軸・増減表の作成 2次方程式の解の公式 2次関数の最大・最小問題 実生活の問題への応用	【関心・意欲・態度】 2次関数の性質や応用に興味を持ち、自発的に問題に挑戦する態度。 【数学的な見方や考え方】 グラフの特徴と式の間を論理的に理解し、問題解決に活用できる力。 【数学的な技能】 平方完成や頂点の求め方を正確に使い、グラフを描画できる技能。 【知識・理解】 2次関数の定義、平方完成、解の公式の意味を正しく理解している。	○	○	○	12
定期考査				○	○		1
2 学 期	場合の数と確率 順列・組合せの考え方を理解し、場合の数を正しく計算できる。 確率の基礎概念を理解し、確率を計算して問題解決に活用できる。 確率的思考を使って日常の問題を数学的に考察できる。	順列と組合せ 場合の数の計算方法 確率の定義と基本性質 確率計算（場合の数を使ったもの） 実生活の確率問題（くじ引き・サイコロなど）	【関心・意欲・態度】 確率や場合の数に興味を持ち、自発的に問題に取り組もうとする態度。 【数学的な見方や考え方】 問題の条件を整理し、論理的に場合分けや確率計算ができる力。 【数学的な技能】 順列・組合せの計算や確率の計算を正確に行う技能。 【知識・理解】 場合の数と確率の基本的な概念・公式を理解している。	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
	データの分析 データの整理・代表値・散らばりの概念を理解し、適切に計算・解釈できる。 ヒストグラムや箱ひげ図などのグラフを使ってデータの特徴を把握できる。	データの整理と表現（度数分布表、ヒストグラム） 平均・中央値・最頻値 四分位数・範囲・分散・標準偏差の基礎	【関心・意欲・態度】 データ分析に興味を持ち、自分でデータ整理や考察を行う姿勢。 【数学的な見方や考え方】 データの特徴を多角的に捉え、数学的に解釈・説明できる力。 【数学的な技能】 代表値や散らばりの計算、グラフ作成が正確	○	○	○	13

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 理科 科目 化学基礎

教科：理科 科目：化学基礎 単位数：2 単位

対象学年組：第 3 学年 6 組

教科担当者：

使用教科書：

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、目的意識をもって観察、実験を行う。

【思考力、判断力、表現力等】自然の事物・現象に対する化学の基本的な概念や原理法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

【学びに向かう力、人間性等】自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、科学的に探究する能力と態度を育てる。

科目 化学基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	身近な物質とその変化から問題を見だし、探究する過程を通して、化学的に正しく判断し、的確に表現できる。	物質とその変化への関心を高め、それらを積極的に探究しようとする。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	序章 化学の特徴 【知識及び技能】 化学変化を利用し、つくられる物質の種類や役割を学ぶ 【思考力、判断力、表現力等】 物質のはたらきの有用性を利用し、社会や日常で活用される方法や役割について考える。 【学びに向かう力、人間性等】 日常生活や社会を支える物質の利用とその製造の例を通して、化学に対する興味・関心を高める。	指導事項 ・オリエンテーション ・金属やプラスチックなど生活に根づく物質がどのように作られているかに着目し、その利用法や物質にはたらく作用を中心に、興味を持たせる。 教材【教科書】	【知識・技能】 金属・プラスチックの製造や再利用、洗剤や食品添加物の有用性と危険性といった知識について身に付けており、物理的性質・化学的性質を調べることができる。 【思考・判断・表現】 物質のはたらきの有用性や危険性を適切な評価に基づき、化学が果たしている役割について考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 日常生活を支える物質に関心を持ち、化学が社会や生活に果たしている役割について意欲的に探究しようとしている。	○	○	○	2
	第1編 物質の構成と化学結合 1章 物質の構成 第1節 混合物と純物質 第2節 物質とその成分 第3節 物質の三態と熱運動 【知識及び技能】 物質の分離・精製方法、物質の三態と熱運動について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 物質の分離・精製方法や単体や化合物、混合物について考える。 物理変化と化学変化の違いについて考える。 【学びに向かう力、人間性等】 物質の構造や性質、粒子間にはたらく力に関する事象を通して、化学に対する興味・関心を高める。	指導事項 ・混合物の分離・精製する様々な方法について、実験動画を用いることで、その仕組みと注意点を理解させる。 ・物質が原子からできていることから、物質の構成粒子やその作用について取り扱い、物質の状態によって変わる粒子の在り方をイメージできるように可視化する。 教材【教科書・ワーク・ワークシート】	【知識・技能】 混合物の分離・精製に際し、適切な方法を選択することができる。 物質は種々の元素から成り立っており、それらの元素は元素記号を用いて表されることを理解している。 化学的に探究する方法を理解するとともに粒子の熱運動と三態との関係を理解し、物質についての微視的な見方や考え方を身に付けている。 【思考・判断・表現】 単体や化合物、混合物の違いについて説明することができる。 同素体とは何かを説明できる。 物質の状態変化から、粒子の熱運動と粒子間に働く力を説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 物質の構造や性質、粒子に働く力に関心を持ち、意欲的に探究しようとしている。	○	○	○	6
	定期考査			○	○	○	1
	第1編 物質の構成と化学結合 2章 物質の構成粒子 第1節 原子とその構造 第2節 イオン 第3節 元素の周期表 3章 粒子の結合 第1節 イオン結合とイオンからなる物質 第2節 分子と共有結合 【知識及び技能】 原子の構造や電子配置について理解する。 粒子の結合や物質の基本的な性質を学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 様々な結合で構成される物質を、その結合の種類と関連付けて考える。 【学びに向かう力、人間性等】 身近な例から物質が様々な構成からなることを通して、化学に対する興味・関心を高める。	指導事項 ・原子の構造について理解するとともに、電子殻と電子配置について理解し、価電子の重要性を認識させる。 ・3章では多くの結合が学習事項としてあり、内容が定着しにくい可能性がある。よって繰り返し時間をかけることで本学習の定着を図るとともに、結合を含めた結晶の性質などを学ぶ。 教材【教科書・ワーク・ワークシート】	【知識・技能】 原子の構成粒子について理解している。 金属・非金属元素などの分布および同族元素について理解している。 物質を構成する粒子の結合について、基本的な概念や原理・法則を理解し、身に付けている。 【思考・判断・表現】 イオンのなりやすさについてイオン化エネルギーや電子親和力の値の大小と関連させて考えることができる。 イオン結合、金属結合、共有結合でできた物質について、その性質を結合の種類と関連付けて考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 身近な物質が原子、分子、イオンなどの構成粒子からなっていることを探究しようとする。	○	○	○	16
定期考査			○	○	○	1	

2 学 期	<p>第1編 物質の構成と化学結合</p> <p>3章 粒子の結合</p> <p>第3節 共有結合の結晶</p> <p>第4節 金属結合と金属</p> <p>第2編 物質の変化</p> <p>1章 物質と化学反応式</p> <p>第1節 原子量・分子量・式量</p> <p>第2節 物質</p> <p>第3節 溶液の濃度</p> <p>【知識及び技能】</p> <p>粒子の結合や物質の基本的な性質を学ぶ。</p> <p>原子量・物質量の概念を理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>様々な結合で構成される物質を、その結合の種類と関連付けて考える。</p> <p>モル質量の概念を用い、粒子の数・質量と物質量に関する計算をする。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>身近な例から物質が様々な構成からなることを通して、化学に対する興味・関心を高める。</p> <p>物質量の概念に興味を持ち、粒子の数・質量・気体の体積の関係について意欲的に学ぶ。</p>	<p>指導事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 各結合の性質について学ぶ。 原子量・分子量・式量・物質量の概念、考え方を学ぶ。特に物質量は、化学を扱ううえで不可欠な事項であることから、生徒全員に身に付けさせる。 <p>教材【教科書・ワーク・ワークシート】</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>原子量、分子量、式量と物質量の知識を身に付けている。</p> <p>物質量と粒子の数、質量、気体の体積を相互に変換できる。</p> <p>質量パーセント濃度やモル濃度の定義を理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>金属特有の性質が自由電子によるものであることを理解し、金属結合および金属結晶の性質について説明できる。</p> <p>物質量を用いた基本的な計算を習得することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>代表的な物質の原子量・分子量・式量などの物質量の基本事項や、濃度との関係を関連付けて考察しようとするとともに、意欲的にそれらを探究しようとする。</p>	○	○	○	12
	定期考査			○	○	○	1
	<p>第2編 物質の変化</p> <p>1章 物質と化学反応式</p> <p>第4節 化学反応式と物質</p> <p>2章 酸と塩基の反応</p> <p>第1節 酸・塩基</p> <p>第2節 水の電離と水溶液のpH</p> <p>第3節 中和反応と塩</p> <p>第4節 中和滴定</p> <p>【知識及び技能】</p> <p>物質量や式量等、酸・塩基の定義の知識を学ぶとともに、実験から実験器具の取り扱いができ、表やグラフの作成の完成を目指す。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>式量や物質量を化学反応式で表し、化学反応の量的関係を考える。また、中和の量的関係を数式で表せることを、実験により理解させ、計算方法も体得させる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>化学変化や酸・塩基の中和反応を日常生活と関連させることで、化学に対する興味・関心を高める。</p>	<p>指導事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 化学反応式を書くこと、量的な関係を理解できるようにする。 中和の量的関係を理解するとともに、滴定操作により未知の濃度の酸や塩基の濃度を求めることができることを実験的に理解させる。 <p>教材【教科書・ワーク・ワークシート】</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>化学反応式を用いて量的な計算をすることができる。</p> <p>酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連付けて酸・塩基反応を捉えることができ、さらに中和滴定の量的関係を理解している。</p> <p>実験器具の取り扱いができると同時に、酸・塩基の量的関係から濃度未知の酸や塩基の濃度を求める技能を習得している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>水素イオン濃度と水酸化物イオン濃度の関係を用いて、水酸化物イオン濃度からpHを求めることができる。</p> <p>酸・塩基の定義を理解し、酸・塩基反応および中和反応を考察できる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>酸、塩基に関心をもち、それらを日常生活に関連付けて意欲的に探究しようとする。</p>	○	○	○	15
定期考査			○	○	○	1	
3 学 期	<p>第2編 物質の変化</p> <p>3章 酸化還元反応</p> <p>第1節 酸化と還元</p> <p>第2節 酸化剤と還元剤</p> <p>第3節 金属の酸化還元反応</p> <p>第4節 酸化還元反応の利用</p> <p>【知識及び技能】</p> <p>イオン化傾向による反応性の違い等から、酸化還元反応を理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>酸化還元反応の酸化数等を考え、まとめることができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>日常生活の中にある酸化還元反応に対して関心を持ち、意欲的に学ぶ。</p>	<p>指導事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 酸化還元反応における電子のやり取りを可視化するため、酸化数を導入する。同時に金属のイオン化傾向から、電池の原理は酸化還元に基づくものであることを確認する。 <p>教材【教科書・ワーク・ワークシート】</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>電子の授受や酸化数の変化から酸化還元反応を理解し、知識を身に付けている。</p> <p>金属のイオン化傾向とそれによる反応性の違いを理解し、身近に酸化還元反応が利用されていることを理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>酸化・還元反応の定義と酸化数の定義の有効性を理解し、共通性を見だし、酸化還元反応として論理的に考察できる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>燃焼、金属の溶解の利用に興味をもち、それらの共通性を身近な現象と関連付けて意欲的に探究する。</p>	○	○	○	14
	定期考査			○	○	○	1
合計							
70							

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 理科 科目 化学

教科：理科 科目：化学 単位数：4 単位

対象学年組：第3学年 1組～4組

教科担当者：

使用教科書：

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】 自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、目的意識をもって観察、実験を行う。

【思考力、判断力、表現力等】 自然の事物・現象に対する化学の基本的な概念や原理法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、科学的に探究する能力と態度を育てる。

科目 化学 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
化学的な事物・現象の観察、実験などを行うことを通して、科学的な基本的な概念や原理・法則を理解している。科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する技能を身に付けている。	化学的な事物・現象を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、検証、データの分析・解釈、報告書の作成など探究の方法を習得し、科学的に探究する力を身に付けている。	化学的な事物・現象に主体的に関わり、課題を設定し解決しようとする態度や、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1章 物質の状態と平衡 第1節 状態変化 第2節 固体の構造 【知識及び技能】 ・物質の状態とその変化について理解する。 ・結晶構造とその種類について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・蒸気圧と沸騰の関係を考察する。 ・金属結晶の体心立方格子、面心立方格子、六方最密構造の粒子の配列、特徴を理解し、計算する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・物質の構造について興味をもち、意欲的に学ぶ。	指導事項 ・物質の構造と融点・沸点 ・状態間の平衡と熱運動 ・結晶の構造 ・アモルファス 教材【教科書・ワーク・ワークシート】	【知識・技能】 ・物質の構造と沸点・融点の関係について、基本的な知識を身に付けている。 ・それぞれの結晶構造について基本的な知識を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・物質の構造が沸点・融点に大きく影響していること考えることができる。 ・結晶とアモルファスの違いについて説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・物質の状態と平衡に関心をもち、それらを意欲的に探究しようとしている。 ・結晶の構造について興味をもち、意欲的に探究しようとする。	○	○	○	6
1章 物質の状態と平衡 第3節 気体の性質 第4節 溶液 【知識及び技能】 ・気体の性質についてボイル・シャルルの法則を通して理解する。 ・溶解のしくみについて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・気体の状態方程式を用いて、分子量などを求める。 ・溶解度について理解し、計算する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・気体の温度、体積、圧力の関係に関心をもたせる。	指導事項 ・ボイル・シャルルの法則 ・気体の状態方程式 ・溶解 ・溶解度 ・希薄溶液の性質 ・コロイド溶液 教材【教科書・ワーク・ワークシート】	【知識・技能】 ・ボイル・シャルルの法則を理解している。 ・溶解のしくみについて、基本的な原理と知識を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・物質の構造が沸点・融点に大きく影響していること考えることができる。 ・気体の温度、体積、圧力の関係を論理的に考えることができる。 ・コロイド溶液の性質について推論することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・気体においてなりたつ気体の状態方程式についてその導き方と計算方法について探究しようとする。	○	○	○	18
定期考査			○	○	○	1
2章 物質の変化と平衡 第1節 化学反応と熱・光エネルギー 第2節 電池と電気分解 第3節 反応の速さとしくみ 第4節 化学平衡 【知識及び技能】 ・化学反応において、反応前後で物質が持つエネルギーの差がさまざまなエネルギーとして放出されることを理解する。 ・電池と電気分解のしくみについて理解する。 ・反応速度を定量的に理解する。 ・反応には可逆反応と不可逆反応があることを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・反応の前後で物質が持つエネルギーの差をエンタルピー変化で表すことができるようにする。	指導事項 ・エネルギーの変換と保存 ・化学反応と熱エネルギー ・化学反応と光エネルギー ・電池 ・電気分解 ・反応の速さ ・反応速度を変える条件 ・反応のしくみ ・可逆反応と化学平衡 ・化学平衡の移動 ・電離平衡 教材【教科書・ワーク・ワークシート】	【知識・技能】 ・化学反応と熱エネルギーの関係について基本的な概念を理解している。 ・酸化還元反応から電池と電気分解のしくみを理解している。 ・反応速度に影響する条件を理解している。 ・化学平衡について、その概念、原理、法則を理解している。 【思考・判断・表現】 ・ヘスの法則を用いて反応エンタルピーを求めることができる。 ・電気量と物質量の関係から、関連問題を解くことができる。 ・反応のしくみについて論理的に推論することができる。 ・平衡の移動について論理的に説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・化学反応とエネルギーの関係について関心をもち、意欲的に探究しようとする。	○	○	○	27

	<ul style="list-style-type: none"> ・電気量やファラデーの法則を用いて量的関係を計算する。 ・反応速度を求める。 ・化学平衡について、反応速度の観点から考える。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・化学反応とエネルギーの関係について関心をもたせる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・反応の速さに関する事象・現象に関心を持ち、反応のしくみを探究しようとする。 ・化学反応における可逆反応、化学平衡に興味を持ち、その現象について探究しようとする。 						
	定期考査			○	○	○			1
2 学 期	<p>3章 無機物質</p> <p>第1節 周期表 第2節 非金属元素 第3節 金属元素</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周期表における各元素の位置を理解する。 ・非金属元素の製法、性質、反応について理解する。 ・金属元素の製法、性質、反応について理解する。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周期表から得られるさまざまな情報から、元素の特徴などを説明できるようにする。 ・非金属元素の単体、化合物において、性質や反応を説明できるようにする。 ・金属元素の単体、化合物において、性質や反応を説明できるようにする。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周期表における元素の配置に関心をもたせる。 ・非金属元素の単体、化合物について関心をもたせる。 ・金属元素の単体、化合物について関心をもたせる。 	<p>指導事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周期表の元素 ・水素と貴ガス ・ハロゲン（17族）とその化合物 ・14～16族元素とその化合物 ・アルカリ金属とその化合物 ・アルカリ土類金属とその化合物 ・1,2族以外の典型元素とその化合物 ・遷移元素とその化合物 ・金属イオンの分離と確認 <p>教材【教科書・ワーク・ワークシート】</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周期表から各元素の性質と分類を理解することができる。 ・非金属元素の単体、化合物において、それぞれの物質の製法、性質、反応性について理解することができる。 ・金属元素の単体、化合物において、それぞれの物質の製法、性質、反応性について理解することができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周期表から得られるさまざまな情報（陽性と陰性、原子半径、イオン化エネルギーと電子親和力、電気陰性度、酸化物の性質）について説明することができる。 ・それぞれの非金属元素の単体、化合物において、その性質や反応を論理的に推論することができる。 ・それぞれの金属元素の単体、化合物において、その性質や反応を論理的に推論することができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周期表における元素の配置に興味を持ち、各元素の分類を探究しようとする。 ・それぞれの非金属元素の単体、化合物について関心を持ち、その製法や性質、反応性について探究しようとする。 ・それぞれの金属元素の単体、化合物について関心を持ち、その製法や性質、反応性について探究しようとする。 						24
	定期考査			○	○	○			1
	<p>4章 有機化合物</p> <p>第1節 有機化合物の特徴と分類 第2節 脂肪族炭化水素 第3節 酸素を含む脂肪族化合物 第4節 芳香族化合物</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機化合物は、少ない元素からなるが、非常に多くの種類があることを理解する。 ・脂肪族炭化水素の構造式や一般式、性質、反応について理解する。 ・酸素を含む脂肪族化合物について、定義、分類、性質、反応を理解する。 ・芳香族化合物の性質、反応について理解する。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機化合物の特徴を理解し、分類できるようにする。 ・脂肪族炭化水素の構造式や一般式、性質、反応について説明できるようにする。 ・酸素を含む脂肪族化合物について、定義、分類、性質、反応について説明できるようにする。 	<p>指導事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機化合物の特徴 ・有機化合物の分類 ・有機化合物の構造式の決定 ・飽和炭化水素 ・不飽和炭化水素 ・アルコールとエーテル ・アルデヒドとケトン ・カルボン酸とエステル ・芳香族炭化水素 ・酸素を含む芳香族化合物 ・窒素を含む芳香族化合物 ・混合物の分離 <p>教材【教科書・ワーク・ワークシート】</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機化合物の特徴と分類について理解している。 ・炭化水素の構造や反応性、それぞれの関係について理解し、知識として身に付けている。 ・酸素を含む脂肪族化合物について、その性質や反応性が官能基によって特徴づけられていることを理解している。 ・芳香族化合物について、その特徴や反応性が官能基によって特徴づけられることを理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機化合物の特徴を理解し、分類することができる。 ・酸素を含む脂肪族化合物について、それぞれの物質がもつ官能基によって共通の性質がもたらされることを理解し、その性質を実験によって確かめることができる。 ・芳香族化合物について、それぞれの物質がもつ官能基によって共通の性質がもたらされることを理解し、その性質を実験によって確かめることができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機化合物の特徴と分類について探究しようとする。 						27

	<ul style="list-style-type: none"> ・芳香族化合物の性質、反応について説明できるようになる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・有機化合物の特徴と分類に関心をもたせる。 ・炭化水素の構造と性質について関心をもたせる。 ・酸素を含む脂肪族化合物について関心をもたせる。 ・芳香族化合物について、その代表的な物質の性質や反応性について関心をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> うとする。 ・脂肪族炭化水素について、その構造と性質を意欲的に探究しようとする。 ・酸素を含む脂肪族化合物について、その構造や性質、反応性を意欲的に探究しようとする。 ・芳香族化合物について、その構造や性質、反応性を意欲的に探究しようとする。 									
	定期考査			○	○	○	1				
3 学 期	<p>5章 高分子化合物</p> <p>第1節 高分子化合物 第2節 天然高分子化合物 第3節 合成高分子化合物</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高分子化合物の分類と特徴、そのでき方について理解する。 ・天然高分子化合物について、その代表的な物質の構造、性質、存在例などを理解する。 ・合成高分子化合物について、その代表的な物質の構造、性質、利用例などを理解する。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高分子化合物の特徴を理解し、分類できるようにする。 ・天然高分子化合物について、その代表的な物質の構造、性質、存在例などについて説明できるようになる。 ・合成高分子化合物について、その代表的な物質の構造、性質、利用例などについて説明できるようになる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高分子化合物の特徴と分類に関心をもたせる。 ・天然高分子化合物について、その構造や性質、存在例について関心をもたせる。 ・合成高分子化合物について、その構造や性質、存在例について関心をもたせる。 	<p>指導事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高分子化合物の分類と特徴 ・糖類 ・タンパク質 ・合成繊維 ・合成樹脂 ・合成ゴム ・機能性高分子化合物 <p>教材【教科書・ワークシート】</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高分子化合物の分類と特徴について理解している。 ・天然高分子化合物の性質と反応に関する概念や原理・法則を理解している。 ・合成高分子化合物の性質と反応に関する概念や原理・法則を理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高分子化合物の分類と特徴を理解し、分類することができる。 ・天然高分子化合物について、構造、性質、存在例を理解し、説明することができる。 ・合成高分子化合物について、構造、性質、存在例を理解し、説明することができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高分子化合物の分類と特徴について探究しようとする。 ・天然高分子化合物について、その構造や性質、存在例を意欲的に探究しようとする。 ・合成高分子化合物について、その構造や性質、存在例を意欲的に探究しようとする。 					○	○	○	33
	定期考査				○	○	○	1			
								合計			

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 理科 科目 生物基礎

教科：理科 科目：生物基礎 単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 5組

教科担当者：

使用教科書：

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、目的意識をもって観察、実験を行う。

【思考力、判断力、表現力等】自然の事物・現象に対する化学の基本的な概念や原理法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

【学びに向かう力、人間性等】自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、科学的に探究する能力と態度を育てる。

科目 生物基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	・観察、実験などを行い、日常生活や社会から問題を見出し、研究する過程を通して、生物学的に正しく判断し、的確に表現する力を身に付ける。	・生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1編 生物の特徴 1章 生物の多様性と共通性 【知識及び技能】 ・生物の特徴について、生物の共通性と多様性のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・生物の特徴について、観察、実験などを通して探究し、生物の共通性と多様性を見いだして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・生物の特徴に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。	1節 生物の多様性 ・生物の多様性は進化の結果、生じたものであることを理解させる。 2節 生物の共通性 ・すべての生物には「細胞からできている」「DNAをもつ」「エネルギーを利用する」「自分と同じ構造をもつ個体をつくる」「体内の状態を一定に保つ」という共通性がみられることを見出させる。 3節 細胞の特徴 ・すべての細胞は細胞膜に包まれた構造とDNAをもつことや、真核細胞は核や複雑な細胞小器官をもち、原核細胞はそれらをもたないこと、生物は細胞の種類で真核生物と原核生物に分けられることを理解させる。	【知識・技能】 ・生物の特徴について、生物の共通性と多様性の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・生物の共通性と多様性について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・生物の共通性と多様性に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。				8
1編 生物の特徴 2章 生物とエネルギー 【知識及び技能】 ・生物の特徴について、生物とエネルギーのことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・生物の特徴について、観察、実験などを通して探究し、生物とエネルギーを見いだして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・生物とエネルギーに関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。	1節 生体とATP ・生物は、代謝によって生命活動に必要なエネルギーを得ていることを理解させる。 ・生体内でのエネルギーの受け渡しには、ATPが用いられることを理解させる。 2節 生体内の化学反応 ・酵素の主成分はタンパク質で、基質特異性をもつ触媒としてはたらくことを理解させる。 3節 呼吸と光合成 ・呼吸では、酸素を用いて有機物を分解し、化学エネルギーを取り出していることを理解させる。 ・光合成では、光エネルギーを化学エネルギーに変換し、この化学エネルギーを利用して無機物から有機物を合成していることを理解させる。	【知識・技能】 ・生物の特徴について、生物とエネルギーの基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・生物とエネルギーについて、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・生物とエネルギーに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。				8
定期考査			○	○		1
1学期 2編 遺伝子とそのはたらき 1章 遺伝情報とDNA 【知識及び技能】 ・遺伝子とそのはたらきについて、遺伝情報とDNAのことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・遺伝子とそのはたらきについて、観察、実験などを通して探究し、遺伝情報を担う物質としてのDNAを見いだして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・遺伝子とそのはたらきに関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。	1節 生物と遺伝子 ・生物の形質は、それぞれの生物がもつ遺伝情報によって決まることを理解させる。 ・遺伝情報を担うのが遺伝子であり、遺伝子の本体はDNAであるということを理解させる。 2節 DNAの構造 ・DNAは、塩基・糖・リン酸からなるヌクレオチドが繰り返して並んでできていることを理解させる。 ・4種類のヌクレオチドのうち特定の塩基どうしが結合して、DNAは2重らせん構造となることを理解させる。 3節 DNAの複製と分配 ・DNAの複製では、複製前の2本の鎖が分離し、それぞれ鋳型となって新しい鎖が合成され2本のDNAになることを理解させる。 ・複製は細胞周期のS期に起こることを理解させる。	【知識・技能】 ・遺伝子とそのはたらきについて、遺伝情報とDNAの基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・遺伝情報とDNAについて、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・遺伝情報とDNAに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。				8

<p>2編 遺伝子とそのはたらき 2章 遺伝情報とタンパク質</p> <p>【知識及び技能】 ・遺伝子とそのはたらきについて、遺伝情報とタンパク質の合成の関係を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・遺伝子とそのはたらきについて、観察、実験などを通して探究し、遺伝情報とタンパク質の合成との関係を見だし表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・遺伝情報とタンパク質合成に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p> <p>定期考査</p>	<p>1節 タンパク質 ・タンパク質は、生物のさまざまな形質や生命活動にかかわっていることを理解させる。 ・これらのタンパク質の情報は遺伝子によって定められていることを理解させる。 2節 DNAとタンパク質の合成 ・DNAの遺伝情報をもとにして、転写・翻訳という過程を経て、タンパク質が合成されることを理解させる。 3節 細胞分化と遺伝子 ・個体を構成する細胞は、同一の遺伝情報をもつが、それぞれの細胞で発現する遺伝子は、その細胞の機能により異なることを理解させる。</p>	<p>【知識・技能】 ・遺伝子とそのはたらきについて、遺伝情報とタンパク質の合成の基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・遺伝情報とタンパク質の合成について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・遺伝情報とタンパク質の合成に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p>	○	○	○	8
定期考査			○	○		1
<p>3編 ヒトの体の調節 1章 体内環境と情報伝達</p> <p>【知識及び技能】 ・神経系と内分泌系による調節について、情報の伝達のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・神経系と内分泌系による調節について、観察、実験などを通して探究し、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見だし表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・情報の伝達に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p> <p>定期考査</p>	<p>1節 体内環境 ・細胞を取り巻く環境を体内環境と言い、ヒトの身体は恒常性によって体内環境が維持されていることを理解させる。 2節 神経系による情報伝達 ・神経系は、交感神経及び副交感神経を介した情報伝達により、器官の機能を調節し、体内環境の維持に関わっていることを理解させる。 3節 ホルモンによる情報伝達 ・内分泌系では、ホルモンが標的器官に作用し、各器官を調節することで体内環境を維持していることを理解させる。 4節 血糖濃度の調節 ・血糖濃度は、自律神経系と内分泌系が強調してはたらくことで調節されていることを理解する。</p>	<p>【知識・技能】 ・神経系と内分泌系による調節について、情報の伝達の基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・情報の伝達について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・情報の伝達に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p>				10
定期考査			○	○		1
<p>2学期 3編 ヒトの体の調節 2章 免疫のはたらき</p> <p>【知識及び技能】 ・免疫について、免疫のはたらきを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・免疫について、観察、実験などを通して探究し、異物を排除する防御機構が備わっていることを見だし表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・免疫のはたらきに関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p> <p>定期考査</p>	<p>1節 免疫のしくみ ・食細胞などによる自然免疫やリンパ球による適応免疫が、病原体の排除にはたらくしていることを理解させる。 2節 免疫記憶 ・B細胞やT細胞は、体内に侵入した抗原の情報を記憶して、同種の抗原が再び侵入しても、病気が発症する前に抗原を排除することができることを理解させる。 3節 免疫とさまざまな疾患 ・免疫が正常にはたらかないと、病原体以外の抗原に過敏に反応するアレルギーや、自己の細胞を抗原として認識してしまう自己免疫疾患などを発症することを知り、これを理解させる。 ・AIDSはウイルスにより免疫機能がはたらかなくなる病気であることを理解させる。</p>	<p>【知識・技能】 ・免疫について、免疫の働きの基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・免疫の働きについて、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・免疫の働きに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p>				10
定期考査			○	○		1

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 理科 科目 生物

教科 理科 科目 生物

単位数： 4 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組 ～ 4 組

教科担当者：

使用教科書：

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、目的意識をもって観察、実験を行う。

【思考力、判断力、表現力等】自然の事物・現象に対する化学の基本的な概念や原理法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

【学びに向かう力、人間性等】自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、科学的に探究する能力と態度を育てる。

科目 生物 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	・観察、実験などを行い、日常生活や社会から問題を見出し、研究する過程を通して、生物学的に正しく判断し、的確に表現する力を身に付ける。	・生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1編 生物の進化 1章 生命の起源と細胞の進化 【知識及び技能】 ・生物の進化について、生命の起源と細胞の進化のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・生物の進化について、観察、実験などを通して探究し、生命の起源と細胞の進化についての特徴を見いだして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・生命の起源と細胞の進化に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。	1節 共通性と多様性をつなぐ進化 2節 生命の誕生 3節 生物の多様性と地球環境の変化	【知識・技能】 ・生物の進化について、生命の起源と細胞の進化の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・生物の進化について、観察、実験などを通して探究し、生命の起源と細胞の進化についての特徴を見いだして表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・生命の起源と細胞の進化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	○	○	○	8
1編 生物の進化 2章 遺伝子の変化と進化のしくみ 【知識及び技能】 ・生物の進化について、遺伝子の変化と進化のしくみについて理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・生物の進化について、観察、実験などを通して探究し、遺伝子の変化と進化のしくみについての特徴を見いだして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・遺伝子の変化と進化のしくみに関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。	1節 遺伝的変異 2節 多様な遺伝的変異をもたらす有性生殖 3節 進化の定義と自然選択による進化 4節 遺伝子レベルで見る進化 5節 種分化	【知識・技能】 ・生物の進化について、遺伝子の変化と進化のしくみの基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・生物の進化について、観察、実験などを通して探究し、遺伝子の変化と進化のしくみについての特徴を見いだして表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・遺伝子の変化と進化のしくみに主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	○	○	○	9
1編 生物の進化 3章 生物の系統と進化 【知識及び技能】 ・生物の進化について、生物の系統と進化のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・生物の進化について、観察、実験などを通して探究し、生物の系統と進化についての特徴を見いだして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・生物の系統と進化に関する事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。	1節 生物の系統 2節 生物の系統分類 3節 霊長類のなかのヒト 4節 人類の出現と変遷	【知識・技能】 ・物の進化について、生物の系統と進化の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・生物の進化について、観察、実験などを通して探究し、生物の系統と進化についての特徴を見いだして表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・生物の系統と進化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	○	○	○	8

1 学期	定期考査							1
	2編 生命現象と物質 1章 細胞と物質	1節 細胞を構成する成分 2節 生体膜のはたらき 3節 細胞の構造 4節 タンパク質の構造 5節 酵素としてはたらくタンパク質 6節 生命現象とタンパク質	【知識・技能】 ・生命現象と物質について、細胞と分子の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・生命現象と物質について、観察、実験などを通して探究し、細胞と分子についての特徴を見いだして表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・細胞と分子に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	○	○			11
	2編 生命現象と物質 2章 代謝とエネルギー	1節 代謝とエネルギー 2節 呼吸 3節 発酵 4節 光合成	【知識・技能】 ・生命現象と物質について、代謝の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・生命現象と物質について、観察、実験などを通して探究し、代謝についての特徴を見いだして表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・代謝に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	○	○	○		8
	3編 遺伝情報の発現と発生 1章 遺伝情報とその発現	1節 DNAの構造 2節 DNAの複製 3節 遺伝情報の流れ 4節 RNAと転写 5節 翻訳のしくみ 6節 遺伝情報の変化	【知識・技能】 ・遺伝情報の発現と発生について、遺伝情報とその発現の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・遺伝情報の発現と発生について、観察、実験などを通して探究し、遺伝情報とその発現についての特徴を見いだして表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・遺伝情報とその発現に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	○	○	○		9
	定期考査			○	○			1

3編 遺伝情報の発現と発生 2章 発生と遺伝子発現	1節 原核生物の遺伝子発現の調節	【知識・技能】 ・遺伝情報の発現と発生について、発生と遺伝子発現の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・遺伝情報の発現と発生について、観察、実験などを通して探究し、発生と遺伝子発現についての特徴を見いだして表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・発生と遺伝子発現に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	○	○	○	12
	2節 真核生物の遺伝子発現の調節					
	3節 選択的遺伝子発現と細胞分化					
4節 動物の発生						
5節 胚の細胞の発生運命と遺伝子発現						
6節 発生現象と遺伝子発現の調節						
7節 動物の形と調節遺伝子の発現						
3編 遺伝情報の発現と発生 3章 遺伝子を扱う技術	1節 遺伝子を増幅する技術	【知識・技能】 ・遺伝情報の発現と発生について、遺伝子を扱う技術の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・遺伝情報の発現と発生について、観察、実験などを通して探究し、遺伝子を扱う技術についての特徴を見いだして表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・遺伝子を扱う技術に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	○	○	○	8
	2節 塩基配列を解読する技術					
	3節 遺伝子組換え技術の利用					
	4節 遺伝子や細胞を扱う技術の課題					
4編 生物の環境応答 1章 動物の刺激の受容と反応	1節 刺激の受容から反応への流れ	【知識・技能】 ・刺激の受容と反応について、動物の反応の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・刺激の受容と反応について、観察、実験などを通して探究し、環境変化に対する生物の応答の特徴を見いだして表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・刺激の受容と反応に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	○	○	○	12
	2節 ニューロンの興奮					
	3節 興奮の伝導					
	4節 興奮の伝達					
	5節 刺激の受容と感覚					
	6節 中枢神経系での情報処理					
	7節 効果器					
2 学 期	定期考査		○	○		1
3編 生物の環境応答 2章 動物の行動	1節 動物の行動とは	【知識・技能】 ・動物の行動について、神経系の働きと行動との関係の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・動物の行動について、観察、実験などを通して探究し、環境変化に対する生物の応答の特徴を見いだして表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・動物の行動に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	○	○	○	8
	2節 刺激の受容と行動					
	3節 学習のしくみ					

<p>3編 生物の環境応答 2章 植物の環境応答</p> <p>【知識及び技能】 ・植物の環境応答について、植物の成長や反応に植物ホルモンが関わることを見いだして理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・植物の環境応答について、観察、実験などを通して探究し、神経系の働きと行動との関係を見いだして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・植物の環境応答に関する事象・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>	<p>1節 被子植物の生殖と発生</p> <p>2節 植物の一生の出来事と環境の影響</p> <p>3節 植物ホルモンと光受容体</p> <p>4節 環境要因による発芽の調節</p> <p>5節 茎や根の成長と環境要因の影響</p> <p>6節 気孔の開閉の調節と環境要因の影響</p> <p>7節 花芽形成と環境要因の影響</p> <p>8節 果実の形成と成熟のしくみ</p> <p>9節 器官の老化と脱落のしくみ</p>	<p>【知識・技能】 ・物の環境応答について、神経系の働きと行動との関係の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・植物の環境応答について、観察、実験などを通して探究し、環境変化に対する生物の応答の特徴を見いだして表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・植物の環境応答に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p>	○	○	○	14
<p>5編 生態と環境 1章 個体群と生物群集</p> <p>【知識及び技能】 ・生態と環境について、個体群と生物群集のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・生態と環境について、観察、実験などを通して探究し、生態系における生物間の関係及び生物と環境との関係性を見いだして表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・生態と環境に関する事象・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>	<p>1節 生態系からみた生物</p> <p>2節 個体群と環境</p> <p>3節 個体群の構造と成長</p> <p>4節 個体間の相互作用</p> <p>5節 種間の相互作用</p> <p>6節 生物群集の成り立ちと多種の共存</p>	<p>【知識・技能】 ・生態と環境について、個体群と生物群集の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・生態と環境について、観察、実験などを通して探究し、個体群と生物群集についての特徴を見いだして表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・個体群と生物群集の理解に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p>	○	○	○	13
<p>定期考査</p>			○	○		1
<p>5編 生態と環境 2章 生態系の物質生産と物質循環</p> <p>【知識及び技能】 ・生態と環境について、生態系の物質生産と物質循環のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・生態系の物質生産と物質循環に関する資料にもとづいて、生態系における物質生産及びエネルギーの移動と生態系での物質循環とを関連づけて理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・生態系の物質生産と物質循環に関する事象・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>	<p>1節 食物網と物質生産</p> <p>2節 生態系の物質収支と生態ピラミッド</p>	<p>【知識・技能】 ・生態と環境について、生態系の物質生産と物質循環の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・生態系の物質生産と物質循環に関する資料にもとづいて、生態系における物質生産及びエネルギーの移動と生態系での物質循環とを関連づけて理解している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・生態系の物質生産と物質循環に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p>	○	○	○	8
<p>3学期 5編 生態と環境 3章 生態系と人間生活</p> <p>【知識及び技能】 ・生態と環境について、生態系と人間生活のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 ・生態系と人間生活に関する資料にもとづいて、人間生活が生態系に及ぼす影響を見いだして理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・生態系と人間生活に関する事象・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>	<p>1節 生物多様性</p> <p>2節 人間社会の変化と生態系</p> <p>3節 生態系の復元</p> <p>4節 人間は自然とどう付き合っていくらよいか</p>	<p>【知識・技能】 ・生態と環境について、生態系と人間生活の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ・生態系と人間生活に関する資料にもとづいて、人間生活が生態系に及ぼす影響を見いだして表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・生態系と人間生活に主体的に関わり、人間生活の在り方について考え、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。</p>	○	○	○	7

<p>物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>						
<p>定期考査</p>						<p>1</p> <p>合計</p> <p>140</p>

年間授業計画

高等学校 令和8年度（3年保育・栄養選択） 保健体育 科目 トレーニング理論

教科：保健体育科 科目：トレーニング理論 単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 1組～4組 選択

教科担当者：

使用教科書：

教科 保健体育

目標：

【知識及び技能】 トレーニングの原則原理を理解し、その種類と方法について様々な対象者に対応できる知識を習得する。

【思考力、判断力、表現力等】 体力についての理解を深め、肉体的のみならず精神的な部分にも着目し、あらゆるトレーニングメニューを構築できるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】 最新の知識を習得し、生涯を通じてトレーニングの重要性と理解し豊かで活力のある生活態度を養うようにする。

科目 トレーニング理論 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
トレーニングの原則原理を理解し、アスリートや一般人に対してのトレーニング方法を構築できるようにする。	対象者に対してのトレーニング方法を構築するにあたり、様々な視点から計画できるようにする。	トレーニングについての様々な知識を習得することにより、一生涯に渡り、健康で豊かな生活を送ることができるような態度を育てる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	トレーニングの原則原理について	①トレーニングとは ②トレーニングの目的 ③トレーニングの原則原理	【知識・技能】 トレーニングの原則原理について理解を深める。アスリートと一般人のトレーニングの目的に違いなどを理解する。 【思考・判断・表現】 トレーニングについての理解を深め、様々な方法を見つげられる。 【主体的に学習に取り組む態度】 トレーニングについての理解を深め自分の生活に取り入れるべき事柄を見つげられる	○	○	○	6
	トレーニングの種類について	トレーニングの種類と方法 ①筋力トレーニングについて ②アスリートのトレーニングについて	【知識・技能】 様々なトレーニングについて理解する。よりよいトレーニング方法について理解し生活改善に反映させる具体的方策を作成する。 【思考・判断・表現】 筋力トレーニングを例に、生活を改善する方法を実践できるようにする 【主体的に学習に取り組む態度】 トレーニングの種類から選択して、方法についてレポート作成をする。	○	○	○	10
	体力について	①体力とは ②筋力について	【知識・技能】 体力についての基本的知識を深める。また、筋肉の構造を理解することで、より効果的なトレーニング法を見出せる糸口とする。 【思考・判断・表現】 それぞれの課題を発見し、問題提起ができるようにする。 【主体的に学習に取り組む態度】 アスリートのトレーニングについてレポート作成をする。	○	○	○	8
	効果的なトレーニング方法	①筋力トレーニングから考える②効果的なトレーニング	【知識・技能】 筋力トレーニングについての様々な効果を理解する。 【思考・判断・表現】 アスリートまたは一般人を対象として、考えをまとめることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 個人レポートを作成してまとめとする。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
2 学 期	体の構造について	①体の構造 ②脂肪燃焼について	【知識・技能】 体の構造を理解することにより、より効果的な方法を構築する材料とする。また、脂肪燃焼のメカニズムを理解することにより、健康的な食生活習慣、運動習慣の形成、よりよい休養のとり方について生活改善に反映させる具体的方策を作成できるようにする。 【思考・判断・表現】 スポーツパフォーマンスの向上のみでなく、生活を改善する方法を実践できるようにする。 【主体的に学習に取り組む態度】 レポート作成により、自分の生活の改善する方策を確認する。	○	○	○	22
	トレーニングと栄養	①栄養素について ②トレーニングと食事について	【知識・技能】 スポーツパフォーマンスの向上には食事や栄養素の補給が欠かせないことを理解して、トレーニング計画に反映することができるようにする。特別講師を招いての授業でより深い知識習得を実践する。 【思考・判断・表現】 具体的な事例を基に、食事メニューの計画を立てることができるようにする。 【主体的に学習に取り組む態度】 グループ学習を中心に意見をまとめる。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
	スポーツによって起こる怪我について	①怪我の予防 ②熱中症対策 ③応急処置	【知識・技能】 スポーツの種目別に起こりうる怪我について理解を深める。また、応急処置の方法について理解して実践できるようにする。 【思考・判断・表現】 実際の場面で迅速に対応するための技術を考え、意見交換する。 【主体的に学習に取り組む態度】 グループ学習の中で自分の意見を発言できる。グループで意見をまとめる。	○	○	○	8

3 学期	トレーニング計画	アスリート及び一般人のトレーニング計画（まとめ）	<p>【知識・技能】個人および社会生活や事例などと比較、分類、分析する</p> <p>【思考・判断・表現】トレーニング計画にあたり、注意すべき事項についての理解を深め対象者に取り入れるべき事柄を見つけられる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】個人レポートを作成してまとめとする。</p>	○	○	○	6
							合計 82

高等学校 令和8年度（3学年用）教科 外国語 科目 英語コミュニケーションⅡ

教科：外国語 科目：英語コミュニケーションⅡ 単位数：4 単位

対象学年組：第3学年 5組、6組

教科担当者：

使用教科書：

教科 外国語 の目標：

- 【知識及び技能】英語でのコミュニケーションに必要な英文法の基礎を習得する。
- 【思考力、判断力、表現力等】英語で相手の考えを理解し、自分の考えを円滑に伝えられるようにする。
- 【学びに向かう力、人間性等】相手と積極的に英語でコミュニケーションを図る意欲を育てる。

科目 英語コミュニケーションⅡ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
英語を用いた言語活動を通して、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識及び技能を身に付ける。	情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることができる。	英語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		聞	読	話 （ 「 や 」 ）	話 （ 「 発 」 ）	書					
1 学 期	Lesson1 Places Worth Visiting Lesson2 Iwago Mitsuaki: Animal Photographer 【知識及び技能】 「行きたい場所」を表現するときに使える基本的な単語を理解している。また、want+人+to doやask+人+to doの用法を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 ・「行きたい場所」「自分の好きな写真」について英語で書き、発表することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・「行きたい場所」について関心を持ち、積極的に発言したり聞こうとしたりしている。 ・岩合光昭さんの考え方や、写真について関心を持ち、積極的に発言したり聞こうとしたりしている。	・指導事項 want+人+to do 疑問詞+ to不定詞 ・教材 教科書、ワークブック ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	○	○	○	24
	定期考査						○	○	○		1
1 学 期	Lesson3 The Haka Lesson4 Digital Detox 【知識及び技能】 ・世界の文化に関する単語を理解している。また、分詞の用法を理解している。 ・デジタル機器に関する単語を理解している、またif節・疑問詞節の用法を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・本文各Partの内容を簡潔にまとめて話すことができる。 ・「世界の文化」「デジタル機器との関わり方」について英語で書き、発表することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・「世界の文化」「デジタル機器」について関心を持ち、積極的に発言したり聞こうとしたり、自分の考えを持つことができる。	・指導事項 分詞 if節・疑問詞節 ・教材 教科書、ワークブック ・一人1台端末の活用	○	○	○	○	○	○	○	○	27
	定期考査						○	○	○		1

高等学校 令和8年度 (3学年用) 教科

外国語 科目 選択科目 論理・表現 I

教科: 外国語

科目: 選択科目 論理・表現 I

単位数: 2 単位

対象学年組: 第 3 学年 組～ 組

教科担当者:

使用教科書:

教科 外国語 の目標:

- 【知識及び技能】英語でのコミュニケーションに必要な英文法の基礎を習得する。
- 【思考力、判断力、表現力等】英語で相手の考えを理解し、自分の考えを円滑に伝えられるようにする。
- 【学びに向かう力、人間性等】相手と積極的に英語でコミュニケーションを図る意欲を育てる。

科目 選択科目 論理・表現 I の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
高校英語の学習に必要な英文法の基礎を体系的に学習し、併せてコミュニケーションのもとになる読む・聞くの力を伸ばしていく。	英語で相手の考えを理解し、自分の考えを円滑に伝えられるようにするために、グループワークなどを利用し実践的な英語力を伸ばしていく。	積極的に英語でコミュニケーションを図る意欲を育てるため、生徒の関心の高い題材を多用し自ら話したくなる学習環境を整える。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		聞	読	話 (や)	話 (発)	書					
1 学 期	単元 Lesson 1.2 【知識及び技能】 基本時制 (現在・過去・進行形)、 未来形 【思考力、判断力、表現力等】 基本時制と未来形を使って、身近な 出来事や、自分の考えなどを整理し て、相手に伝え合うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 積極的に会話を続けようとし、相手 の話す内容にきちんと耳を傾けたり している。	・指導事項 現在形・現在進行形・過去形・過 去進行形・未来形を用いた表現 ・教材 教科書・ワークブック	○	○	○	○	○				12
	単元 Lesson3.4.5 【知識及び技能】 助動詞・完了形・受動態 【思考力、判断力、表現力等】 助動詞・完了形・受動態を使って、 経験や好きなものについての紹介を 伝え合うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 好きな日本の食べ物について、グ ループでの話し合いを通して自分た ちの考えをまとめ、それを積極的に 伝えようとしている。	・指導事項 助動詞・完了形・受動態を用いた 表現 ・教材 教科書・ワークブック	○	○	○	○	○				14
	定期考査							○	○	○	1
2 学 期	単元 Lesson6.7.8 【知識及び技能】 比較級・最上級・同等比較・倍数 比較・動名詞・to不定詞の名詞的 用法 【思考力、判断力、表現力等】 比較の仕方と表現方法の知識の育 成、動名詞とto不定詞の名詞的用法 を理解し使うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 数値やデータの比較をもとに最適な 表現方法を見つけ、相手に伝え合う ことができる。	・指導事項 比較級・最上級・同等比較・倍数 比較・動名詞・to不定詞の名詞的 用法 ・教材 教科書・ワークブック	○	○	○	○	○				15
	単元 Lesson9.10.11 【知識及び技能】 現在分詞・関係代名詞・不定詞 【思考力、判断力、表現力等】 現在分詞・関係代名詞・不定詞を理 解し使うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 数値やデータの比較をもとに最適な 表現方法を見つけ、相手に伝え合う ことができる。	・指導事項 現在分詞・関係代名 詞・不定詞 ・教材 教科書・ワークブック	○	○	○	○	○				15
	定期考査						○	○	○	1	

高等学校 令和8年度 (3学年用) 教科

外国語 科目 調理科選択科目 論理・表現Ⅱ

教科：外国語 科目：調理科選択科目 論理・表現Ⅱ

単位数：2 単位

対象学年組：第 3 学年 5 組～ 組

教科担当者：

使用教科書：

教科 外国語 の目標：

- 【知識及び技能】 英語でのコミュニケーションに必要な英文法の基礎を習得する。
- 【思考力、判断力、表現力等】 英語で相手の考えを理解し、自分の考えを円滑に伝えられるようにする。
- 【学びに向かう力、人間性等】 相手と積極的に英語でコミュニケーションを図る意欲を育てる。

科目 調理科選択科目 論理・表現Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
高校英語の学習に必要な英文法の基礎を体系的に学習し、併せてコミュニケーションのもとになる読む・聞くの力を伸ばしていく。	英語で相手の考えを理解し、自分の考えを円滑に伝えられるようにするために、グループワークなどを利用し実践的な英語力を伸ばしていく。	積極的に英語でコミュニケーションを図る意欲を育てるため、生徒の関心の高い題材を多用し自ら話したくなる学習環境を整える。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		聞	読	話 [や]	話 [発]	書					
1 学 期	単元 Lesson 1. 2 【知識及び技能】 基本時制（現在・過去・進行形）、 未来形 【思考力、判断力、表現力等】 基本時制と未来形を使って、身近な 出来事や、自分の考えなどを整理し て、相手に伝え合うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 積極的に会話を続けようとし、相手 の話す内容にきちんと耳を傾けたり している。	・指導事項 現在形・現在進行形・過去形・過 去進行形・未来形を用いた表現 ・教材 教科書・ワークブック	○	○	○	○	○	○	○	○	12
	単元 Lesson3. 4. 5 【知識及び技能】 助動詞・完了形・受動態 【思考力、判断力、表現力等】 助動詞・完了形・受動態を使って、 経験や好きなものについての紹介を 伝え合うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 好きな日本の食べ物について、グ ループでの話し合いを通して自分た ちの考えをまとめ、それを積極的に 伝えようとしている。	・指導事項 助動詞・完了形・受動態を用いた 表現 ・教材 教科書・ワークブック	○	○	○	○	○	○	○	○	14
	定期考査							○	○	○	1
2 学 期	単元 Lesson6. 7. 8 【知識及び技能】 比較級・最上級・同等比較・倍数 比較級・最上級・同等比較・倍数比 較・動名詞・to不定詞の名詞的用法 【思考力、判断力、表現力等】 比較の仕方と表現方法の知識の育 成、動名詞とto不定詞の名詞的用法 を理解し使うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 数値やデータの比較をもとに最適な 表現方法を見つけ、相手に伝え合う ことができる。	・指導事項 比較級・最上級・同等比較・倍数 比較級・動名詞・to不定詞の名詞的 用法 ・教材 教科書・ワークブック	○	○	○	○	○	○	○	○	15
	単元 Lesson9. 10. 11 【知識及び技能】 現在分詞・関係代名詞・to不定詞 【思考力、判断力、表現力等】 現在分詞・関係代名詞・to不定詞を 理解し使うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 数値やデータの比較をもとに最適な 表現方法を見つけ、相手に伝え合う ことができる。	・指導事項 現在分詞・関係代名詞・to不定詞 ・教材 教科書・ワークブック	○	○	○	○	○	○	○	○	15
	定期考査							○	○	○	1

3 学 期	単元 Lesson12.13.14 【知識及び技能】 関係詞(関係副詞)、仮定法、接続詞 【思考力、判断力、表現力等】 関係詞(関係副詞)、仮定法、接続詞 を理解して、使うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 メールの書き方や、仮定法を使った アドバイスなどを通して、お互いの 気持ちを伝え合うことができる。	・指導事項 関係詞(関係副詞)、仮定法、接続 詞を用いた表現 ・教材 教科書・ワークブック	○	○	○	○	○	関係詞(関係副詞)、仮定法、接続詞につ いて理解し、演習問題にも対応すること ができる。 ・仮定法の基本構文を理解し、仮定法を 使って自分の考えを相手に伝える文章を 書くことができる。	○	○	○	12
	定期考査											
												70

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 家庭 科目 課題研究

教科： 家庭 科目： 課題研究 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 4 組

教科担当者：

使用教科書：

教科 家庭 の目標： 生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを旨とする。

【知識及び技能】 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭・衣食住、消費や環境などについて生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し実践を評価・改善し考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど生涯を見通して課題を解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

科目 課題研究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実際の場面に応用発展できる転移性のある確かな知識と技術を身につけ、深化し、総合化させる力を身につけさせる。	今後の変化の激しい社会においても活躍できるように、問題解決の能力や創造的な学習態度を育てる。	課題解決の方策を検討し、計画を立て、主体的に実践できる力を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	担当時数
1 学期 オリエンテーション 課題（テーマ）の設定と実施計画、研究、中間発表 ①災害時の食支援②パンを極める③幼児英語④絵本を作る⑤子どもの運動能力向上プロジェクト⑥料理研究家への道⑦植物を育てる⑧アートとコミュニケーションのゼミに分かれる 【知識及び技能】 課題研究の進め方について理解し、自らの将来につながる課題を設定する。 【思考力、判断力、表現力等】 設定した課題の解決に向けて、実施計画を立て、わかりやすくまとめる。また、社会のニーズを考慮し、適切なテーマ設定ができる 【主体的に学習に取り組む態度】 課題を解決するために、自ら学び、生活産業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	・1年間の授業の流れ ・課題研究の進め方（例：記録を取る等） ・課題の設定 ・課題解決に向けての計画 ・研究と中間発表 ・一人1台端末の活用	【知識及び技能】 課題研究の進め方について理解し、自らの将来につながる課題を設定できる。 【思考力、判断力、表現力等】 設定した課題の解決に向けて、実施計画を立て、わかりやすくまとめることができる。また、社会のニーズを考慮し、適切なテーマ設定ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 課題を解決するために、自ら学び、生活産業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組んでいる。また、記録やゼミ別発表会などで、わかりやすい資料をまとめたり、発表をすることができる。	○	○	○	28
2 学期 研究、中間発表 【知識及び技能】 課題解決に向けた学びを深める。 【思考力、判断力、表現力等】 実施する中で定期的に計画を見直し、新たな計画を設定する。 【学びに向かう力、人間性等】 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、生活産業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	・課題解決に向けての実施 ・研究と中間発表 ・一人一台端末の活用	【知識及び技能】 課題解決に向けた学びを深められている。 【思考力、判断力、表現力等】 実施する中で定期的に計画を見直し、新たな計画を設定し、実施することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、生活産業の発展や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組んでいる。また、記録やゼミ別発表会などで、わかりやすい資料をまとめたり、発表をすることができる。	○	○	○	32
3 学期 研究成果のまとめ、発表 【知識・技能】 パワーポイントの使い方、レポートのまとめ方、わかりやすいプレゼンの方法を学ぶ 【思考・判断・表現】 研究成果について、パワーポイントを用いて、他者に伝わりやすくまとめる。 【主体的に学習に取り組む態度】 研究成果について、パワーポイントを用いて、他者に伝わりやすくまとめ、他者の発表をもとに自らの学びの向上につなげる姿勢を養う。	・発表準備、パワーポイントの作成 ・レポートA410枚 ・発表 ・一人1台端末の使用	研究成果のまとめ、発表 【知識・技能】 パワーポイントの使い方、レポートのまとめ方、わかりやすいプレゼンの方法を学んでいる。 【思考・判断・表現】 研究成果について、パワーポイントを用いて、+C25:A176他者に伝わりやすくまとめることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 研究成果について、パワーポイントを用いて、他者に伝わりやすくまとめ、他者の発表をもとに自らの学びの向上につなげている。	○	○	○	10
						合計
						70

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科

家庭

科目 保育実践

教科： 家庭

科目： 保育実践

単位数： 4 単位

対象学年組： 第 3 学年 組～ 組

教科担当者：

使用教科書：

教科 家庭

の目標：

【知識及び技能】 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭・衣食住、消費や環境などについて生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し実践を評価・改善し考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど生涯を見通して課題を解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

科目 保育実践

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
子供の表現活動や子育て支援について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身につけるようにする。	保育や子育て支援に関する課題を発見し、子供を取り巻く環境の変化に対応した保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	保育の充実を目指して自ら学び、保育や子育て支援の実践に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	子育て支援と保育 【知識及び技能】 現代社会における子供・子育ての問題や子育て支援について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 地域の様々な子育て支援について課題を発見し、その解決に向けて考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 子育て支援と保育について自ら学び、保育や子育て支援の実践に主体的かつ協働的に取り組む。	<子供・子育て支援>少子化、家庭内暴力、子供の虐待、育児の不安や孤立感など、子供と家庭を取り巻く社会や環境の様々な変化に伴う諸問題について考える。 <子育て支援のための各種施設>身近な地域の子育て支援関連施設の役割を知る。<子育て支援>保育所や認定こども園など、保育施設に入所している子供の保護者を対象とする子育て支援の意義と役割について学ぶ。	【知識及び技能】 国の次世代育成支援対策推進法やその後の子供・子育て関連3法などを知り、地方公共団体、民間企業及びNPO法人などが行う具体的な子育て支援の事例を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 保護者との相互理解や個別支援における専門機関との連携など、保育と密接に関連した保護者支援の方法について考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 保育施設における地域の子育て支援について、高校生にもできることはないか考えさせる。	○	○	○	28
	定期考査			○	○	○	1
2 学期	子供の表現活動と保育 【知識及び技能】 子供の表現活動の意義と重要性を理解し、子供のさまざまな表現活動を促す技術を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 子供のさまざまな表現活動について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する力を養う。 【主体的に学習に取り組む態度】 子供の表現活動と保育について自ら学び、保育や子育て支援の実践に主体的かつ協働的に取り組む力を養う。	<音楽・身体表現活動>作曲、音楽理論 <言語活動>絵本の読み聞かせ、素話 <情報手段などを活用した活動>情報手段を活用した活動の意義について考える。	【知識及び技能】 子どもが主体となって創作する遊びや歌、言葉などを総合した子ども文化の重要性について理解できる。また、子どもにとって音楽とは、感情や感覚に訴えてくるものであることを理解できる。お話の効用として、想像力と思考力を育てる、人間関係を深める、言葉の力や話を聞くことを楽しむ、読書への素地づくりなどがあることを理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 子どものための文化活動、児童文化財、児童文化財施設などについて調べ、子どもの文化の意義について考えることができる。伝承遊びや安全、丈夫で壊れにくいなどの条件を満たした遊具を考案し制作する。また、子どもに歌いかけたり、ともに歌ったり、手拍子を取ったりすることの重要性について考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 現代の商品化された子供の遊びに触れ、社会の変化に伴い、子どもの遊びの環境が変化する中でそれらの問題の課題解決が行える。また、音楽とかかわり、身体を通して表現でき、子どもの想像力を育てることができる。	○	○	○	30
	定期考査			○	○	○	1

<p>保育の活動計画と実習</p> <p>【知識・技能】保育について、体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身につける。</p> <p>【思考・判断・表現】保育実習を通して課題を発見し、その解決に向けて考察する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】保育の活動計画と実習について自ら学び、保育や子育て支援の実践に主体的かつ協働的に取り組む。</p>	<p><保育の活動計画>保育の活動計画を行う。</p> <p><保育実習>保育現場において、保育の活動計画に基づいた保育実習を行う。</p>	<p>【知識・技能】子供の発達や時期を考慮し、どのようなことを身につけてほしいかという具体的なねらいを理解させる。</p> <p>【思考・判断・表現】子供が興味や関心を持って主体的に関わり、その中で発達に必要な体験を積み重ねていくことができるような活動を考えさせる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】単なる子供との触れ合いにとどまらず、観察実習や部分実習など、保育者の視点をもった実習を行わせる。</p>	○	○	○	10
合計						70

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 家庭 科目 フードデザイン

教科： 家庭 科目： フードデザイン 単位数： 4 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 4 組

教科担当者：

使用教科書：

教科 家庭 の目標：

【知識及び技能】 食生活の各分野について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 食生活に関する課題を発見し、職業人に求められる、合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 フードデザイン の目標： 習得した知識と技術を活用し、食生活を総合的にデザインするとともに、家庭や地域において食育を推進に主体的に取り組むことができる資質・能力を育成すること。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに関連する技術・情報を収集・整理することができる。	食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決に向けて考察し、工夫する。	食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
第1章 健康と食生活 食事の意義と役割 食を取り巻く現状 【知識及び技能】 ・食事の意義と役割について理解するとともに、食習慣、栄養状態、食料事情、などの視点で我が国の食生活の現状と課題を把握し、関連する情報を収集・整理できる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・健康な食生活の在り方に関する課題を発見し、その解決に向けて望ましい食習慣の形成や環境に配慮した食生活の工夫などについて他者と意見交換しながら考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・健康と食生活について自ら学び、食生活を総合的にデザインするために主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	・健康と食生活 【教科書、ワークシート、端末、調理実習】	【知識・技能】 ・食事の意義と役割及び我が国の食生活の現状について理解しているか。(定期試験/ワークシート/行動観察) 【思考・判断・表現】 ・健康な食生活の在り方に関する課題を発見し、その解決に向けて望ましい食習慣の形成や環境に配慮した食生活の工夫などについて他者と意見交換しながら考え、工夫しているか。(定期試験/ワークシート/行動観察) 【主体的に学習に取り組む態度】 ・健康と食生活について自ら学び、食生活を総合的にデザインするために主体的かつ協働的に取り組もうとしているか。(ワークシート/行動観察)	○	○	○	28
第2章 栄養素・食品の特徴 栄養素の働き 健康に必要な栄養素 【知識及び技能】 ・基本となる栄養素の炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、無機質などの機能と代謝及び水の生理的機能について理解している。 ・食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 ・食品の性質と目的に応じた加工、貯蔵の方法や食品の表示について、目的に応じた適切な選択ができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・食品の特徴や調理上の性質の変化など、講義で学んだことを調理の学習と相互に関連を図りながら理解し、実際の調理で生かそうと考え、工夫している。	・栄養素と食品の特徴 【教科書、ワークシート、端末、調理実習】	【知識・技能】 ・基本となる栄養素の炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、無機質などの機能と代謝及び水の生理的機能について理解しているか。(定期試験/ワークシート/行動観察) ・食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化について理解しているか。(定期試験/ワークシート/行動観察) 【思考・判断・表現】 ・食品の性質と目的に応じた加工、貯蔵の方法や食品の表示について、目的に応じた適切な選択ができるか。(定期試験/ワークシート/行動観察) 【主体的に学習に取り組む態度】 ・食品の特徴や調理上の性質の変化など、講義で学んだことを調理の学習と相互に関連を図りながら理解し、実際の調理で生かそうと考え、工夫しているか。(ワークシート/行動観察)	○	○	○	36
定期試験			○	○		2

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 家庭 科目 生活と福祉

教科： 家庭 科目： 生活と福祉 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 4 組

教科担当者：

使用教科書：

教科 家庭

の目標： 生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、加速・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭・衣食住、消費や環境などについて生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し実践を評価・改善し考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど生涯を見通して課題を解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実に資する実践的な態度を養う。

科目 生活と福祉 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
高齢者の健康と生活、介護などについて体系的・系統的に理解するとともに関連する技術・情報を収集・整理することができる。	高齢者の健康と生活、介護などに関する課題を発見し、高齢者の自立支援と福祉の充実を担う職業人として合理的かつ創造的に解決に向けて考察し、工夫する。	家族や地域の人々の豊かな生活の実現を目指して自ら学び、高齢者の生活の質の向上と自立生活支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	高齢者の自立支援 【知識及び技能】 高齢者の自立支援の基本的な考え方を理解している 【思考力、判断力、表現力等】 実生活の中での自立支援を理解し、活用することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 グループ活動やレポートの作成に積極的に参加し、自立支援について視野を広げ、実践しようとしている	社会福祉の理念と概念 ノーマライゼーションと ソーシャルインクルージョン 社会福祉を学ぶ意義 教科書、学習ノート、ワークシート、1人1台端末	【知識・技能】 学習内容について理解している 【思考・判断・表現】 広い視野で物事を捉え、適切に表現したり、実生活での活用や実践に気づくことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 知識と技能の習得に取り組み、ワークシート等の作成や実習を通して学習内容を理解している。	○	○	○	8
	健康と生活 【知識及び技能】 各ライフステージにおける健康課題や目標を理解している 【思考力、判断力、表現力等】 各ライフステージの特徴を理解し、将来に生かす方法を考えることができる 【学びに向かう力、人間性等】 グループ活動やレポートの作成に積極的に参加し、健康と生活について視野を広げ、実践しようとしている。	健康に関する諸概念 ライフステージと健康管理 教科書、学習ノート、ワークシート、1人1台端末	【知識・技能】 学習内容について理解している 【思考・判断・表現】 広い視野で物事を捉え、適切に表現したり、実生活での活用や実践に気づくことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 知識と技能の習得に取り組み、ワークシート等の作成や実習を通して学習内容を理解している。	○	○	○	12
	介護の実習 【知識及び技能】 基本的な介助技術を習得する 【思考力、判断力、表現力等】 介助技術を習得し、介助の根拠を知り、介助における具体的な配慮をすることができる 【学びに向かう力、人間性等】 実習やレポートの作成に積極的に参加し、技術の向上を目指そうとしている	体位変換 車いすの移乗・移動の介護 教科書、学習ノート、ワークシート、1人1台端末	【知識・技能】 学習内容について理解している 【思考・判断・表現】 広い視野で物事を捉え、適切に表現したり、実生活での活用や実践に気づくことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 知識と技能の習得に取り組み、ワークシート等の作成や実習を通して学習内容を理解している。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	少子高齢化の現状と高齢者の特徴 【知識及び技能】 日本の少子高齢化の変化について理解する。家族関係の変化について理解する 【思考力、判断力、表現力等】 高齢化の現状や世帯構成の変化の背景を理解し、実情に即した福祉サービスを考えることができる 【学びに向かう力、人間性等】 グループ活動やレポートの作成に積極的に参加し、少子高齢化について多角的に捉えている。	少子高齢化の現状 家族・地域の変化 教科書、学習ノート、ワークシート、1人1台端末	【知識・技能】 学習内容について理解している 【思考・判断・表現】 広い視野で物事を捉え、適切に表現したり、実生活での活用や実践に気づくことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 知識と技能の習得に取り組み、ワークシート等の作成や実習を通して学習内容を理解している。	○	○	○	12

年間授業計画

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科

家庭 科 生活と福祉・実践

教科： 家庭

科目： 生活と福祉・実践

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組 ～ 4 組

教科担当者：

使用教科書：

教科 家庭

の目標：

【知識及び技能】

人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、加速・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭・衣食住、消費や環境などについて生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し実践を評価・改善し考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど生涯を見通して課題を解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

科目 生活と福祉・実践

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
高齢者の健康と生活、介護などについて体系的・系統的に理解するとともに関連する技術・情報を収集・整理することができる。	高齢者の健康と生活、介護などに関する課題を発見し、高齢者の自立支援と福祉の充実を担う職業人として合理的かつ創造的に解決に向けて考察し、工夫する。	家族や地域の人々の豊かな生活の実現を目指して自ら学び、高齢者の生活の質の向上と自立生活支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	3章 高齢者の自立生活支援 【知識及び技能】 自立生活支援と高齢者介護について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。3章 高齢者の自立生活支援	・ノーマライゼーションについて ・バリアフリーについて ・ユニバーサルデザインについて 【教科書、ワークシート、端末】	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート	○	○	○	12
	5章 介護・看護の実習と生活支援 【知識及び技能】 介護・看護の実際について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	・高齢者の食生活について ・「食」の生活支援 ・傾聴について 【教科書、ワークシート、端末】	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート	○	○	○	12
2 学 期	2章 高齢化の現状と高齢者の特徴 【知識及び技能】 高齢化の現状や高齢者の心身の特徴、生活課題の施策について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	・高齢者の自立生活支援と「住」の生活支援 ・サロン活動について 【教科書、ワークシート、端末】	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート	○	○	○	12
	1章 人の一生と生活・健康 【知識及び技能】 健康の概念やライフステージにおける健康管理について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	・オレンジリボン運動について 【教科書、ワークシート、端末】	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート	○	○	○	14

3 学 期	2章 高齢化の現状と高齢者の特徴 【知識及び技能】 高齢化の現状や高齢者の心身の特徴、生活課題の施策について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	・認知症について 【教科書、ワークシート、端末】	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート	○	○	○	20
						合計	70

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科

家庭 科目 食と健康

教科：家庭

科目：食と健康

単位数：2 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 4 組

教科担当者：

使用教科書：

教科 家庭

の目標： 家庭生活に関わる産業の見方・考え方を培わせる。実践的・体験的な学習活動を通して、生活の質の向上と社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】 食生活の特定分野について体系的・系統的に理解するとともに関連する実験・実習技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 食と健康に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 職業生活を営むために必要な豊かな人間性を育む。自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。

科目 食と健康

の目標： 2学年までに習得した関連分野の知識と技能を活用し、特に「食と健康」にかかわる分野を掘り下げながら、健康的な生活に主体的に取り組むことができる資質・能力を育成すること。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・栄養学と食品科学の基礎を学習し、食を通して社会に望まれるスペシャリストへ成長するため就職や上級学校進学に備えた知識・技能を身につける。 ・演習を通して、基本的な実験・実習技法を体験・習得し、インターネット情報を用いて食と健康に関わる事例を整理できる。	・食と健康に関する課題について発見・計画・創造し、考え抜く力を身につける。 ・将来自身のなりたい姿に近づくために思考・判断・表現する力を身につける。	・科学的な視点に基づき社会に適応出来る能力（覚悟と基礎力）を身につけ、コミュニケーション能力を高める。 ・チーム力（発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力）を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
A 自身の食の現在地 【知識及び技能】 自身の食の現在地を認識するための知識と技能を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 自身の食の現在地から将来の自身の健康を想像し、食生活と栄養を関連付けて思考・判断・表現する力を身につける。 【学びに向かう力、人間性等】 高校で学ぶ基礎科目の重要性を再認識し、自身の食生活を客観的に評価・表現するために必要な情報を主体的に集める力を身につける。	●指導事項 「食と健康」ガイダンス ・自身の食の現在地を認識することでパーソナリティを認知できるよう指導する。 ・自分にとって、食べることはどんな位置（意味）づけか、人に伝えられるようにまとめるよう指導する。 ・高校の基礎科目の大切さを対話しながら指導し、再認識させる。 ●教材：外部講師資料 ●一人1 台端末の活用 等	【知識・技能】 自身の食の現在地を認識するための知識と技能を身につけているか。 【思考・判断・表現】 自身の食の現在地から将来の自身の健康を想像し、食生活と栄養を関連付けて思考・判断・表現する力を身につけているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 高校で学ぶ基礎科目の重要性を再認識し、自身の食生活を客観的に評価・表現するために必要な情報を主体的に集めようとしているか。	○	○	○	6
B 三大栄養素 【知識及び技能】 「食品、栄養、健康」をより深く学ぶために必要な有機化学の一部（化学基礎では学ばない応用）の知識を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 三大栄養素の振り返りから、これまでに習得した知識をより発展的に思考・判断・表現する力を身につける。 【学びに向かう力、人間性等】 社会や上級学校で学ぶことを前提に「食と健康」に関する応用の知識を主体的に自身の生活に生かす力を身につける。	●指導事項 「化学基礎」では学んでいない「有機化学」の範囲にはなるが、「食品、栄養、健康」をより深く理解するために必要な部分に応用知識として学習させる。 ●教材：外部講師資料 ●一人1 台端末の活用 等	【知識・技能】 食品、栄養、健康をより深く学ぶために必要な有機化学の一部（化学基礎では学ばない応用）の知識を身につけているか。 【思考・判断・表現】 三大栄養素の振り返りから、これまでに習得した知識をより発展的に思考・判断・表現する力を身につける。 【主体的に学習に取り組む態度】 社会や上級学校で学ぶことを前提に「食と健康」に関する応用の知識を主体的に自身の生活に生かそうとしているか。	○	○	○	6
1 学期 C 食品における水 【知識及び技能】 食品に結び付けて水を考えるための応用的な知識を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 化学基礎で学んだ水の性質を食品に結び付けて考え直し、より深く思考・判断・表現する力を身につける。 【学びに向かう力、人間性等】 自身の将来に向けて、食品や調理等の分野を通じて化学基礎の学習内容を結び付け「食と健康」を主体的に学ぶ力を身につける。	●指導事項 「水の性質」を再確認させる。 ・「糖類」についても再確認した上で、市販の飲料（果汁飲料・スポーツドリンク等）の糖度を測定させる。 ・異なる糖や酸の溶液を調整し、酸甘バランスについて知る機会を作る。 ・カフェイン等飲料に含まれる成分について健康との関係を知る機会を作る。 ●教材：外部講師資料 ●一人1 台端末の活用 等	【知識・技能】 食品に結び付けて水を考えるための応用的な知識を身につけているか。 【思考・判断・表現】 化学基礎で学んだ水の性質を食品に結び付けて考え直し、より深く思考・判断・表現する力を身につけているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 自身の将来に向けて、食品や調理等の分野を通じて化学基礎の学習内容を結び付け「食と健康」を主体的に学ぼうとしているか。	○	○	○	6

<p>D エネルギーになる栄養素とからだを作る栄養素</p> <p>【知識及び技能】 エネルギーになる栄養素とからだを作る栄養素についての知識を確実に身につける。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 栄養素の機能についてより深く知ることによって「食事の大切さ」や「ダイエットが必要か」を思考・判断・表現する力を身につける。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 自分ごととして「栄養素の機能」を見つめ直し、「食と健康」について主体的に学ぶ力を身につける。</p> <p>定期考査</p>	<p>●指導事項 ・エネルギーになる栄養素とからだを作る栄養素について再確認させる。 ・代謝や体格について学び、ダイエットやダイエットサプリについて学ばせる。 ・乳製品等（たんぱく質やアミノ酸に関する食品・飲料）と体作りや皮膚や肌の健康についての影響を学ぶ機会を作る。</p> <p>●教材：外部講師資料 ●一人1 台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】 エネルギーになる栄養素とからだを作る栄養素についての知識を確実に身につけているか。</p> <p>【思考・判断・表現】 栄養素の機能についてより深く知ることによって「食事の大切さ」や「ダイエットが必要か」を思考・判断・表現する力を身につけているか。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 自分ごととして「栄養素の機能」を見つめ直し、「食と健康」について主体的に学ぼうとしているか。</p>	○	○	○	6
定期考査			○	○		1
<p>E 炭水化物と食物繊維の違い</p> <p>【知識及び技能】 炭水化物の消化吸収について、利用可能な炭水化物と食物繊維の違いを化学的に理解する。 栄養成分データベースで検索する技能を身につける。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 炭水化物と食物繊維の違いについて思考・判断し自身の言葉で表現できる。 目的に応じて栄養成分データベースを使った結果を表示できる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 酵素による分解機能や栄養成分データベースについて主体的に学ぶ力を身につける。</p>	<p>●指導事項 ・炭水化物のうち、エネルギー産生栄養素としての「でんぷん」と「食物繊維」の違いを酵素による分解過程の違いを通じて学ばせる。 ・栄養成分データベースの使用法を確認し習得させる。</p> <p>●教材：外部講師資料 ●一人1 台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】 炭水化物の消化吸収について、利用可能な炭水化物と食物繊維の違いを化学的に理解しているか。 栄養成分データベースで検索する技能を身につけているか。</p> <p>【思考・判断・表現】 炭水化物と食物繊維の違いを自分の言葉で表現できるか。 目的に応じて栄養成分データベースを使った結果を表示できるか。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 酵素による分解機能や栄養成分データベースについて主体的に学ぼうとしているか。</p>				12
<p>F 減塩と食塩相当量</p> <p>【知識及び技能】 日本人の生活習慣（食習慣）としての食塩の取りすぎと高血圧の発生の関係について理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 減塩と食塩相当量について思考・判断し、自身の言葉で表現する力を身につける。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 減塩を実現する具体的な方法について主体的に学ぶ力を身につける。</p>	<p>●指導事項 ・市販のみそしる加工品を用いて「減塩」「代替調味」について学ばせる。</p> <p>●教材：外部講師資料 ●一人1 台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】 日本人の生活習慣（食習慣）としての食塩の取りすぎと高血圧の発生の関係について理解しているか。</p> <p>【思考・判断・表現】 食塩に関する考え方を自分の言葉で表現できるか。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 減塩を実現する具体的な方法について主体的に学ぼうとしているか。</p>				12
<p>G 栄養成分と乳製品</p> <p>【知識及び技能】 乳製品の栄養成分（たんぱく質、カルシウム等）と健康に関する知識をより深く身につける。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 自身や家族、将来の仕事の対象者に食事を通じて摂取させたい栄養素を想定しながら、乳製品を適切に選択して献立や調理に応用するための思考・判断・表現力を身につける。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 乳製品の栄養素を「食と健康」に主体的に取り入れる態度を身につける。</p> <p>定期考査</p>	<p>●指導事項 ・乳製品の中でもチーズやヨーグルトに含まれる栄養成分についてより深く学ばせる。 ・市販品の機能や味についても知る機会を作る。</p> <p>●教材：外部講師資料 ●一人1 台端末の活用 等</p>	<p>【知識・技能】 乳製品の栄養成分（たんぱく質、カルシウム等）と健康に関する知識をより深く身につけているか。</p> <p>【思考・判断・表現】 自身や家族、将来の仕事の対象者に食事を通じて摂取させたい栄養素を想定しながら、乳製品を適切に選択して献立や調理に応用するための思考・判断・表現力を身につけているか。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 乳製品の栄養素を「食と健康」に主体的に取り入れようとしているか。</p>	○	○		14
定期考査			○	○		1

年間授業計画

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 家庭 科目 調理

教科： 家庭 科目： 調理 単位数： 3 単位
 対象学年組： 第 3 学年 5 組
 教科担当者：
 使用教科書：

教科 家庭 の目標： 家庭の生活の関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、生活の質の向上と社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。
 【知識及び技能】生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付けるようにする。
 【思考力、判断力、表現力等】生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。
 【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 調理 の目標： 家庭の生活の関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、創造的に調理し、健康の保持増進に寄与する食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質能力を育成する。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
調理の基礎、献立作成及び様式別調理などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	食生活の現状から調理に関する課題を発見し、調理を通して食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決に向けて考察し、工夫する。	調理の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び、創造的な調理に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	日本料理（先付、お造り、焼き物、浸し物） 【知識及び技能】 地域や種類により料理の名称や造り方の違いを知る 【思考力、判断力、表現力等】 日本料理で使用する調理技術を習得する 【学びに向かう力、人間性等】 日本料理の種類と調理法の違いを理解し、現代における会席料理とうまみの関係を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	日本料理 【知識・技能】 日本料理の魚の卸し方、包丁の扱い方を理解している 【思考・判断・表現】 日本料理の技法を理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 日本料理の献立構成を理解し、実際に献立を組むことが出来る	○	○	○	15
	西洋料理（ヴィアンド） 【知識及び技能】 基本となる肉の下ごしらえ、調理器具の使い方を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 西洋料理で使用する調理技術を習得する 【学びに向かう力、人間性等】 西洋料理の種類と調理法の違いを理解し、現代におけるフランス料理とソースの関係を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	西洋料理 【知識・技能】 西洋料理で用いる肉の種類と下ごしらえの方法を理解している 【思考・判断・表現】 西洋料理の技法を理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 フランス料理の献立構成を理解し、実際に献立を組むことが出来る	○	○	○	10
	中国料理（火烹法） 【知識及び技能】 放射熱を利用する調理法にはどのようなものがあるか理解する 【思考力、判断力、表現力等】 放射熱を利用する料理と火烹法の種類が結びつく知識を身に付ける 【学びに向かう力、人間性等】 中国料理の種類と調理例を通し、火烹法に用いた料理を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	中国料理 【知識・技能】 中国料理で用いる食材の種類と干货の扱い方を理解している 【思考・判断・表現】 中華料理の技法を理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 中国料理の献立構成を理解し、実際に献立を組むことが出来る	○	○	○	10
	定期考査			○	○		5

	<p>日本料理（会席料理）</p> <p>【知識及び技能】 地域や種類により料理の名称や造り方の違いを知る</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 日本料理で使用する調理技術を習得する</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 日本料理の種類と調理法の違いを理解し、現代における会席料理とうまみの関係を理解する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット 	<p>日本料理</p> <p>【知識・技能】 日本料理の魚の卸し方、季節の食材の扱い方を理解している</p> <p>【思考・判断・表現】 日本料理の技法を理解している</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 日本料理の献立構成を理解し、実際に献立を組むことが出来る</p>	○	○	○	10
	<p>西洋料理（フルコース）</p> <p>【知識及び技能】 基本となる肉の下ごしらえ、調理器具の使い方を理解する</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 西洋料理で使用する調理技術を習得する</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 西洋料理の種類と調理法の違いを理解し、現代におけるフランス料理とソースの関係を理解する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット 	<p>西洋料理</p> <p>【知識・技能】 西洋料理で用いる肉の種類と下ごしらえの方法を理解している</p> <p>【思考・判断・表現】 西洋料理の技法を理解している</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 フランス料理の献立構成を理解し、実際に献立を組むことが出来る</p>	○	○	○	15
2 学 期	<p>中国料理（薬膳料理）</p> <p>【知識及び技能】 薬膳料理にはどのようなものがあるか理解する</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 薬膳料理で利用する食材と調理法に関する知識を身に付ける</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 薬膳料理を通じ、医食同源を理解する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット 	<p>中国料理</p> <p>【知識・技能】 中国料理で用いる食材の種類と干货の扱い方を理解している</p> <p>【思考・判断・表現】 薬膳料理と調味料の関係を理解している</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 中国料理の香辛料について学びを深め、医食同源の料理を作ることが出来る</p>	○	○	○	15
	定期考査			○	○		5
3 学 期	<p>日本料理・西洋料理・中国料理</p> <p>【知識及び技能】 喫食者が食べやすいビュッフェ料理を作るための工夫を理解する</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 喫食者が喜ぶビュッフェ料理にはどのようなものがあるか理解する</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 喫食者が喜ぶ料理にはどのような工夫があるかを知り、テーブルコーディネートを通し表現する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット ・サービスウェア一式 	<p>ビュッフェ</p> <p>【知識及び技能】 ビュッフェ料理の献立構成を理解し、一口サイズやフィンガーフードを作ることが出来る</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 喫食者が喜ぶビュッフェ料理を作ることが出来る</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 喫食者をもてなすにはどのような方法があるのかを知り、表現することが出来る</p>	○	○	○	15
	定期考査			○	○		5
							合計
							105

年間授業計画

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 家庭 科目 栄養

教科： 家庭 科目： 栄養 単位数： 1 単位

対象学年組： 第 3 学年 5 組

教科担当者：

使用教科書：

教科 家庭 の目標：

【知識及び技能】生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上

と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 栄養 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
栄養素の機能と代謝、各ライフステージにおける栄養、労働・スポーツと栄養などについて体系的・系統的に理解するとともに関連する技術・情報を収集・整理することができる。	食生活の現状から栄養に関する課題を発見し、栄養面で健康の保持増進を担う職業人として合理的かつ創造的に解決に向けて考察し、工夫する。	栄養状態の改善の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び、健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	エネルギー代謝と食事摂取基準 【知識及び技能】 エネルギー代謝と食事摂取基準および献立作成について理解し、関連する情報を集約・整理することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 食事摂取基準や食品群別摂取量等を用いた献立作成を行い、健康増進のための食事の栄養バランスの課題を見出し、改善策を考え実践し、考察したことを論理的に表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 食事の栄養バランスへの関心を高め、健康の保持増進のために主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。	・教科書 ・プリント ・食品成分表 ・電卓 ・電子黒板	エネルギー代謝と食事摂取基準 【知識及び技能】 エネルギー代謝と食事摂取基準および献立作成について理解し、関連する情報を集約・整理している。 【思考力、判断力、表現力等】 食事摂取基準や食品群別摂取量等を用いた献立作成を行い、健康増進のための食事の栄養バランスの課題を見出し、改善策を考え実践し、考察したことを論理的に表現しようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 食事の栄養バランスへの関心を高め、健康の保持増進のために主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	11
	定期考査			○	○		2
2 学 期	ライフステージと栄養 【知識及び技能】 各ライフステージの特徴と栄養の特性について理解し、関連する情報を集約・整理することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 各ライフステージの食事摂取基準や食品群別摂取量等を用いた献立作成を行い、健康増進のための食事の栄養バランスの課題を見出し、改善策を考え実践し、考察したことを論理的に表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 各ライフステージの栄養の特性への関心を高め、健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。	・教科書 ・プリント ・食品成分表 ・電卓 ・電子黒板	ライフステージと栄養 【知識及び技能】 各ライフステージの特徴と栄養の特性について理解し、関連する情報を集約・整理している。 【思考力、判断力、表現力等】 各ライフステージの食事摂取基準や食品群別摂取量等を用いた献立作成を行い、健康増進のための食事の栄養バランスの課題を見出し、改善策を考え実践し、考察したことを論理的に表現しようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】 各ライフステージの栄養の特性への関心を高め、健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	16
	定期考査			○	○		2

3 学 期	<p>病態と栄養</p> <p>【知識及び技能】 病態と栄養の関係を理解し、関連する情報を集約・整理することができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 各病態に適した献立作成を行い、食事療法における献立や調理についての課題を見出し、改善策を考え実践し、考察したことを論理的に表現している。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 病態に適した食事療法への関心を高め、健康の保持増進や病態改善に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 ・プリント ・食品成分表 ・電卓 ・電子黒板 	<p>病態と栄養</p> <p>【知識及び技能】 病態と栄養の関係を理解し、関連する情報を集約・整理している。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 各病態に適した献立作成を行い、食事療法における献立や調理についての課題を見出し、改善策を考え実践し、考察したことを論理的に表現しようとしている。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 病態に適した食事療法への関心を高め、健康の保持増進や病態改善に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	4	
	定期考査			○	○		0	
							合計	35

高等学校 令和8年度(3学年用) 教科 家庭 科目 食品衛生

教科: 家庭 科目: 食品衛生 単位数: 4 単位

対象学年組: 第 3 学年 5 組

教科担当者:

使用教科書:

教科 家庭 の目標:

【知識及び技能】生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上

と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 食品衛生 の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
食生活の安全と食品衛生対策について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付けるようにする	食生活の現状から食品衛生に関する課題を発見し、安全で衛生的な食生活の実現を担う調理師として合理的かつ創造的に解決する力を養う	安全で衛生的な食生活の実現を目指して自ら学び、食品衛生に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
食品衛生対策 【知識及び技能】 微生物や化学的作用による食品の変質について理解し、関連する技術を身に付ける 【思考力、判断力、表現力等】 食品の鑑別や保管について課題を発見し、その解決に向けて考察する 【学びに向かう力、人間性等】 食品の変質とその予防について自ら学び、食品の鑑別や保管に主体的かつ協働的に取り組む	教科書 ワークシート 白衣、三角巾	食品衛生対策 【知識及び技能】 微生物や化学的作用による食品の変質について理解し、関連する技術を身に付けている 【思考力、判断力、表現力等】 食品の鑑別や保管について課題を発見し、その解決に向けて考察できる 【学びに向かう力、人間性等】 食品の変質とその予防について自ら学び、食品の鑑別や保管に主体的かつ協働的に取り組むことができる	○	○	○	30
食品添加物 【知識及び技能】 食品添加物の使用目的、用途、使用基準及び表示にちいて理解する 【思考力、判断力、表現力等】 食品添加物の利点、安全性及び食成果うとの関わりについて課題を発見し、その解決に向けて考察する 【学びに向かう力、人間性等】 食品添加物について自ら学び、食品衛生に主体的かつ協働的に取り組む	教科書 ワークシート 白衣、三角巾	食品添加物 【知識及び技能】 食品添加物の使用目的、用途、使用基準及び表示にちいて理解できる 【思考力、判断力、表現力等】 食品添加物の利点、安全性及び食成果うとの関わりについて課題を発見し、その解決に向けて考察できる 【学びに向かう力、人間性等】 食品添加物について自ら学び、食品衛生に主体的かつ協働的に取り組むことができる	○	○	○	20
定期考査			○	○		1
食生活の安全と食品安全行政 【知識及び技能】 食品安全行政の取り組みなど、食品安全に関わる対策について理解する 【思考力、判断力、表現力等】 食品安全対策について課題を発見し、その解決に向けて考察する 【学びに向かう力、人間性等】 食生活の安全と食品安全行政について自ら学び、食品衛生に主体的かつ協働的に取り組む	教科書 ワークシート 白衣、三角巾	食生活の安全と食品安全行政 【知識及び技能】 食品安全行政の取り組みなど、食品安全に関わる対策について理解している 【思考力、判断力、表現力等】 食品安全対策について課題を発見し、その解決に向けて考察できる 【学びに向かう力、人間性等】 食生活の安全と食品安全行政について自ら学び、食品衛生に主体的かつ協働的に取り組むことができる	○	○	○	30
定期考査			○	○		1

2 学 期	<p>食中毒とその予防（寄生虫）</p> <p>【知識及び技能】 食中毒の特徴、症状、発生状況と汚染源及びそれらの予防法を理解する</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 食中毒予防における課題を発見し、その解決に向けて考察する</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 食中毒とその予防について自ら学び、食品衛生に主体的かつ協働的に取り組む</p>	<p>教科書 ワークシート 白衣、三角巾</p>	<p>食中毒とその予防（寄生虫）</p> <p>【知識及び技能】 食中毒の特徴、症状、発生状況と汚染源及びそれらの予防法を理解している</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 食中毒予防における課題を発見し、その解決に向けて考察できる</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 食中毒とその予防について自ら学び、食品衛生に主体的かつ協働的に取り組むことができる</p>	○	○	○	30
	定期考査			○	○		1
	<p>食物アレルギーとその予防</p> <p>【知識及び技能】 食物アレルギーの特徴、症状、発生状況と原因物質、発症について理解し、関連する技術を身に付ける</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 食物アレルギーとその予防について自ら学び、食品衛生に主体的かつ協働的に取り組む</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 食物アレルギーとその予防について自ら学び、食品衛生に主体的かつ協働的に取り組む</p>	<p>教科書 ワークシート 白衣、三角巾</p>	<p>食物アレルギーとその予防</p> <p>【知識及び技能】 食物アレルギーの特徴、症状、発生状況と原因物質、発症について理解し、関連する技術を身に付けている</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 食物アレルギーとその予防について自ら学び、食品衛生に主体的かつ協働的に取り組むことができる</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 食物アレルギーとその予防について自ら学び、食品衛生に主体的かつ協働的に取り組むことができる</p>	○	○	○	16
定期考査			○	○		1	
3 学 期	<p>食品衛生対策</p> <p>【知識及び技能】 微生物や化学的作用による食品の変質について理解し、関連する技術を身に付ける</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 食品の鑑別や保管について課題を発見し、その解決に向けて考察する</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 食品の変質とその予防について自ら学び、食品の鑑別や保管に主体的かつ協働的に取り組む</p>	<p>教科書 ワークシート 白衣、三角巾</p>	<p>食品衛生対策</p> <p>【知識及び技能】 微生物や化学的作用による食品の変質について理解し、関連する技術を身に付けている</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 食品の鑑別や保管について課題を発見し、その解決に向けて考察できる</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 食品の変質とその予防について自ら学び、食品の鑑別や保管に主体的かつ協働的に取り組むことができる</p>				10
							合計
							140

年間授業計画

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科

家庭 科目 公衆衛生

教科： 家庭 科目： 公衆衛生

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 5 組～ 組

教科担当者：

使用教科書：

教科 家庭 の目標：

【知識及び技能】生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上

と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 公衆衛生 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
集団の健康と公衆衛生などについて体系的に・系統的に理解するとともに、関連する技術・情報を収集・整理することができる。	公衆衛生に関する課題を発見し、疾病の予防と健康づくりを担う職業人として合理的かつ創造的に解決にむけて考察し、工夫する。	疾病の予防や健康づくりを目指して自ら学び、公衆衛生の発展に自ら学び、創造的な調理に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	食生活と疾病 【知識及び技能】 現代の疾病のあり方は多様化している。健康の概念を理解しそれに必要な食生活について理解する 【思考・判断・表現】 日本の健康水準と世界を比べ、目指すべき健康について考えを深める 【主体的に学習に取り組む態度】 健康であるためにはどうしたらよいか、健康寿命の大切さとヘルスプロモーションについて考える	教科書 疾病の動向と予防や、健康状態を成立させるために必要な食生活について学ぶ。	【知識・技能】 健康の概念を理解し、実践できている 【思考・判断・表現】 日本が長寿国であり、目指すべき健康の姿を理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 健康であるためにはどうしたらよいか、健康寿命の大切さとヘルスプロモーションについて理解している	○	○	○	5
	定期考査			○	○		1
	健康づくり 【知識及び技能】 疾病の予防や、食と健康に関する法律について理解する 【思考・判断・表現】 食と健康に関する法律が生活にどのように生かせるか考えを深める 【主体的に学習に取り組む態度】 調理師が健康づくりの実現にどのように関わられるか考える	教科書 調理師と健康づくりの関りについて理解する。	【知識・技能】 食と健康に関する法律について理解している 【思考・判断・表現】 食と健康に関する法律が生活にどのように生かせるか理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 調理師が健康づくりの実現にどのように関わられるか理解している	○	○	○	13
定期考査			○	○		1	
2 学期	調理師と食育 【知識及び技能】 食育や食育教室について理解する 【思考・判断・表現】 食育における調理師のあり方を理解する 【主体的に学習に取り組む態度】 食育について、調理師としてどのようなことを伝えていきたいか考える	教科書 食育教室を開催するための知識と技術を習得する。	【知識・技能】 食育とは何か理解している 【思考・判断・表現】 食育教室を実践し、計画や実演の知識や技術を習得している 【主体的に学習に取り組む態度】 食育について、調理師としてどのようなことを伝えるか提案できる	○	○	○	24
	定期考査			○	○		1
	労働と健康 【知識及び技能】 労働災害が起きたときにどうしたら良いか理解する 【思考・判断・表現】 快適な調理施設環境に必要な条件とは何か考えを深める 【主体的に学習に取り組む態度】 労働作業環境について考える	教科書 労働災害時、自分には何が出来るか、出来る範囲を広げる。	【知識・技能】 労働災害とは何か理解している 【思考・判断・表現】 快適な調理施設環境に必要な条件を理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 作業環境について考え、改善には何が必要か提案出来る	○	○	○	16
定期考査			○	○		1	

3 学 期	<p>環境と健康</p> <p>【知識及び技能】 身近な日々の暮らしの中で、地球環境保護のためにできることを理解する</p> <p>【思考・判断・表現】 循環型社会をつくるための問題点について考えを深める</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 調理師として環境に配慮した料理をつくればよいか考える</p>	<p>教科書</p> <p>調理師と循環型社会の関りについて理解する。</p>	<p>【知識・技能】 身近な日々の暮らしの中で、地球環境保護のためにできることを理解している</p> <p>【思考・判断・表現】 循環型社会をつくるための問題点について理解している</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 調理師として環境に配慮した料理をつくればよいか理解している</p>	○	○	○	7	
	定期考査			○	○		1	
							合計	70

年間授業計画

高等学校 令和8年度 (3学年用) 教科

家庭 科目 調理理論

教科： 家庭

科目： 調理理論

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 5 組

教科担当者：

使用教科書：

教科 家庭

の目標：

【知識及び技能】生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上

と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 調理理論

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
調理の基礎、献立作成及び様式別調理などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	食生活の現状から調理に関する課題を発見し、調理を通して食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決に向けて考察し、工夫する。	調理の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び、創造的な調理に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	日本料理 (先付、お造り、焼き物、 浸し物) 【知識及び技能】 地域や種類により料理の名称や造り 方の違いを知る 【思考力、判断力、表現力等】 日本料理で使用する調理技術を習得 する 【学びに向かう力、人間性等】 日本料理の種類と調理法の違いを理 解し、現代における会席料理とうま みの関係を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	日本料理 【知識・技能】 日本料理の魚の卸し方、包丁の扱い方を理解 している 【思考・判断・表現】 日本料理の技法を理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 日本料理の献立構成を理解し、実際に献立を 組むことが出来る	○	○	○	10
	西洋料理 (ヴィアンド) 【知識及び技能】 基本となる肉の下ごしらえ、調理器 具の使い方を理解する 【思考力、判断力、表現力等】 西洋料理で使用する調理技術を習得 する 【学びに向かう力、人間性等】 西洋料理の種類と調理法の違いを理 解し、現代におけるフランス料理と ソースの関係を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	西洋料理 【知識・技能】 西洋料理で用いる肉の種類と下ごしらえの方 法を理解している 【思考・判断・表現】 西洋料理の技法を理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 フランス料理の献立構成を理解し、実際に献 立を組むことが出来る	○	○	○	10
	中国料理 (火烹法) 【知識及び技能】 放射熱を利用する調理法にはどのよ うなものがあるか理解する 【思考力、判断力、表現力等】 放射熱を利用する料理と火烹法の種 類が結びつく知識を身に付ける 【学びに向かう力、人間性等】 中国料理の種類と調理例を通し、火 烹法に用いた料理を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	中国料理 【知識・技能】 中国料理で用いる食材の種類と干货の扱い方 を理解している 【思考・判断・表現】 中華料理の技法を理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 中国料理の献立構成を理解し、実際に献立を 組むことが出来る	○	○	○	9
	定期考査			○	○		2
	日本料理 (会席料理) 【知識及び技能】 地域や種類により料理の名称や造り 方の違いを知る 【思考力、判断力、表現力等】 日本料理で使用する調理技術を習得 する 【学びに向かう力、人間性等】 日本料理の種類と調理法の違いを理 解し、現代における会席料理とうま みの関係を理解する	・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット	日本料理 【知識・技能】 日本料理の魚の卸し方、季節の食材の扱い方 を理解している 【思考・判断・表現】 日本料理の技法を理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 日本料理の献立構成を理解し、実際に献立を 組むことが出来る	○	○	○	9

2 学 期	<p>西洋料理（フルコース）</p> <p>【知識及び技能】 基本となる肉の下ごしらえ、調理器具の使い方を理解する</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 西洋料理で使用する調理技術を習得する</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 西洋料理の種類と調理法の違いを理解し、現代におけるフランス料理とソースの関係を理解する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット 	<p>西洋料理</p> <p>【知識・技能】 西洋料理で用いる肉の種類と下ごしらえの方法を理解している</p> <p>【思考・判断・表現】 西洋料理の技法を理解している</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 フランス料理の献立構成を理解し、実際に献立を組むことが出来る</p>	○	○	○	9
	<p>中国料理（薬膳料理）</p> <p>【知識及び技能】 薬膳料理にはどのようなものがあるか理解する</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 薬膳料理で利用する食材と調理法に関する知識を身に付ける</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 薬膳料理を通じ、医食同源を理解する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット 	<p>中国料理</p> <p>【知識・技能】 中国料理で用いる食材の種類と干货の扱い方を理解している</p> <p>【思考・判断・表現】 薬膳料理と調味料の関係を理解している</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 中国料理の香辛料について学びを深め、医食同源の料理を作ることが出来る</p>	○	○	○	9
	定期考査			○	○		2
3 学 期	<p>日本料理・西洋料理・中国料理</p> <p>【知識及び技能】 喫食者が食べやすいビュッフェ料理を作るための工夫を理解する</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 喫食者が喜ぶビュッフェ料理にはどのようなものがあるか理解する</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 喫食者が喜ぶ料理にはどのような工夫があるかを知り、テーブルコーディネートを通し表現する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 ・プリント ・コックコート一式 ・包丁セット ・サーブスウェアー式 	<p>ビュッフェ</p> <p>【知識及び技能】 ビュッフェ料理の献立構成を理解し、一口サイズやフィンガーフードを作ることが出来る</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 喫食者が喜ぶビュッフェ料理を作ることが出来る</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 喫食者をもてなすにはどのような方法があるのかを知り、表現することが出来る</p>	○	○	○	9
	定期考査			○	○		1
							合計
							70

高等学校 令和8年度(3学年用) 教科 福祉 科目 社会福祉基礎

教科: 福祉 科目: 社会福祉基礎 単位数: 2 単位

対象学年組: 第 3 学年 6 組

教科担当者:

使用教科書:

教科 福祉 の目標:

【知識及び技能】福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性をはぐくみ、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発達に主体的かつ共同的に取り組む態度を養う。

科目 社会福祉基礎 の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
社会福祉の実践において必要な知識について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	社会福祉の展開に関する諸問題を発見し、援助者としての倫理観をふまえて、合理的かつ創造的に解決をする力を身に付けている。	健全で持続的な社会を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第4編人間関係とコミュニケーション第1章コミュニケーションの基礎 【知識及び技能】 コミュニケーションについて系統的に理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 コミュニケーションについて理解し、活用方法や場面を考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 コミュニケーションについて主体的に考察し、今後の課題を自ら発見し解決しようとする。	指導事項 ・コミュニケーションの意義と役割 ・コミュニケーションの手段と方法 教材 ・教科書、ワークシート、辞書、一人1台端末	【知識・技能】 コミュニケーションについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する知識や技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 コミュニケーションに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、コミュニケーションの今後の在り方を考察し主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
	第2章支援における人間関係の形成 【知識及び技能】 支援における人間関係の形成について系統的に理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 支援における人間関係の形成について理解し、考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 今後の支援における人間関係の形成について主体的に考察し、今後の課題を自ら発見し解決しようとする。	指導事項 ・傾聴 ・受容 ・共感 ・利用者理解と支援者の自己理解 教材 ・教科書、ワークシート、辞書、一人1台端末	【知識・技能】 支援における人間関係の形成について体系的・系統的に理解するとともに、関連する知識や技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 支援における人間関係の形成に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、支援における人間関係の形成の今後の在り方を考察し主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	12
定期考査			○	○		1	
	第3章社会福祉における支援活動の概要 【知識及び技能】 社会福祉における支援活動について系統的に理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 社会福祉における支援活動について理解し、考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 今後の社会福祉における支援活動について主体的に考察し、今後の課題を自ら発見し解決しようとする。	指導事項 ・個人に対する支援活動とその方法 ・グループや家族に対する支援活動とその方法 ・ソーシャルワーク ・チームワークとリーダーシップ ・人材の育成とキャリア形成 教材 ・教科書、ワークシート、辞書、一人1台端末	【知識・技能】 社会福祉における支援活動について体系的・系統的に理解するとともに、関連する知識や技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 社会福祉における支援活動に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、社会福祉における支援活動の今後の在り方を考察し主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	12

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 福祉 科目 介護福祉基礎

教科：福祉 科目：介護福祉基礎 単位数：1 単位

対象学年組：第3学年 6組

教科担当者：

使用教科書：

教科 福祉 の目標：福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、福祉を通じ、人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえた合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発達に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 介護福祉基礎 の目標：福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、人間の尊厳を支え自立支援を行うために必要な基礎的な資質・能力を次の通り育成することを目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
介護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする	介護に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、適切な介護の実践に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	感染症対策 【知識・技術】 感染症について理解し、正しい知識を身に着ける。 【思考・判断・表現】 感染症に関する諸課題を発見し、解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 感染症にの予防や対応に関して主体的に考察している。	・感染症の理解 ・感染症の予防策 ・介護現場で出会うことの多い感染症 【ワークシート・教科書・テキスト・一人一台端末の活用】	【知識・技能】 ワークシート、定期考査 【思考・判断・表現】 発問、発表、定期考査 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート、提出物	○	○	○	4
	定期考査			0	○	○	1
	介護従事者の健康管理 【知識・技術】 介護従事者の健康管理について理解し、正しい知識を身に着ける。 【思考・判断・表現】 介護従事者の健康管理に関する諸課題を発見し、解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 介護従事者の健康管理に関して主体的に考察している。	・健康管理の重要性 ・心理面の健康管理 ・身体面の健康管理 ・労働衛生に関する知識 【ワークシート・教科書・テキスト・一人一台端末の活用】	【知識・技能】 ワークシート、定期考査 【思考・判断・表現】 発問、発表、定期考査 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート、提出物	○	○	○	2
定期考査				○	○		1
2 学期	介護福祉サービスの概要 【知識・技術】 介護福祉サービスの概要について理解し、正しい知識を身に着ける。 【思考・判断・表現】 介護福祉サービスの概要に関する諸課題を発見し、解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 介護福祉サービスの概要に関して主体的に考察している。	・介護サービスの利用方法 ・介護サービスの特性（在宅） ・居宅介護サービス ・地域密着型サービス 【ワークシート・教科書・テキスト・一人一台端末の活用】	【知識・技能】 ワークシート、定期考査 【思考・判断・表現】 発問、発表、定期考査 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート、提出物	○	○	○	10
	定期考査				○	○	1
	介護福祉サービスの概要 【知識・技術】 介護福祉サービスの概要について理解し、正しい知識を身に着ける。 【思考・判断・表現】 介護福祉サービスの概要に関する諸課題を発見し、解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 介護福祉サービスの概要に関して主体的に考察している。	・介護サービスの場の特性（施設） ・施設サービス ・障害者支援施設サービス ・障害者支援サービスの実際		○	○	○	9
定期考査				○	○		1

3 学 期	国家試験対策 【知識・技術】 介護福祉士国家試験の内容を理解し、役割について考察する 【思考、判断、表現】 事例を考え、他者と意見交換し学びを深めようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 発問をしたり、自己評価を行い、自らを客観的に振り返る。	国家試験対策 【教科書、ワークシート、端末】	【知識・技能】 ワークシート・実習 【思考・判断・表現】 発問、発表・実習 【主体的に学習に取り組む態度】 ワークシート	○	○	○	6
							合計
							35

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 福祉 科目 生活支援技術

教科：福祉 科目：生活支援技術 単位数：3 単位

対象学年組：第 3 学年 6 組

教科担当者：

使用教科書：

教科 福祉 福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、福祉を通じ、人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】 福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえた合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発達に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 生活支援技術 福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、適切で安全・安楽な生活支援技術を提供するために必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
自立生活の支援について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする	自立生活の支援の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、自立生活の適切な支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	経管栄養の実施の手順（胃ろう） 【知識及び技能】経管栄養（胃ろう）に関する知識を理解し、正しく手技を習得できる 【思考力、判断力、表現力等】経管栄養（胃ろう）の手順を実施する際のヒヤリハット、アクシデントに対応できる思考過程・判断力等を身に付ける 【学びに向かう力、人間性等】演習を通じて他者と協調し、積極的に授業に関わる	・演習を通じた技術の習得 ・技術定着テスト（4回）及び医療的ケア教員講習会修了看護師による修了テスト（1回）	【知識・技能】 経管栄養（胃ろう）の実施手順について正しく理解し、技術を身に付けている 【思考・判断・表現】 経管栄養（胃ろう）の実施手順に関する課題を発見し、解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 経管栄養（胃ろう）の実施手順について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	16
	定期考査			○	○		1
	経管栄養の実施の手順（経鼻） 【知識及び技能】経管栄養（経鼻）に関する知識を理解し、正しく手技を習得できる 【思考力、判断力、表現力等】経管栄養（経鼻）の手順を実施する際のヒヤリハット、アクシデントに対応できる思考過程・判断力等を身に付ける 【学びに向かう力、人間性等】演習を通じて他者と協調し、積極的に授業に関わる	・演習を通じた技術の習得 ・技術定着テスト（4回）及び医療的ケア教員講習会修了看護師による修了テスト（1回）	【知識・技能】 経管栄養（経鼻）の実施手順について正しく理解し、技術を身に付けている 【思考・判断・表現】 経管栄養（経鼻）の実施手順に関する課題を発見し、解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 経管栄養（経鼻）の実施手順について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	12
高齢者および障害者の喀痰吸引 【知識及び技能】呼吸器系のしくみと働き、喀痰吸引の基礎知識を理解する 【思考力、判断力、表現力等】喀痰吸引の必要性和安全で的確な喀痰吸引に関する技術を理解する 【学びに向かう力、人間性等】他者と協調し、積極的に授業に関わる。喀痰吸引が必要な利用者の立場に立ち、学習することができる。	①高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 ②呼吸器のしくみとはたらき、喀痰吸引 ③子どもの吸引 ④喀痰吸引手順解説 ・ワークシート ・一人一台端末の活用 ・中央法規テキスト ・確認テストの実施	【知識・技能】 呼吸器系のしくみとはたらき、喀痰吸引の基礎知識、実施手順について理解している。 【思考・判断・表現】 ③子どもの吸引 基礎知識を応用し、実践に結び付けることができ、課題を発見し、解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 喀痰吸引の基礎知識について自ら学び、協働的にとり組もうとしている。	○	○	○	28	

2 学 期	定期考査			○	○		1
	喀痰吸引の実施の手順（口腔内・鼻腔内） 【知識及び技能】 喀痰吸引（口腔内・鼻腔内）に関する知識を理解し、正しく手技を習得できる 【思考力、判断力、表現力等】 喀痰吸引（口腔内・鼻腔内）の手順を実施する際のヒヤリハット、アクシデントに対応できる思考過程・判断力等を身に付ける 【学びに向かう力、人間性等】 演習を通じて他者と協調し、積極的に授業に関わる	・演習を通じた技術の習得 ・技術定着テスト（4回）及び医療的ケア教員講習会修了看護師による修了テスト（1回）	【知識・技能】 喀痰吸引（口腔内・鼻腔内）の実施手順について正しく理解し、技術を身に付けている 【思考・判断・表現】 喀痰吸引（口腔内・鼻腔内）の実施手順に関する課題を発見し、解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 喀痰吸引（口腔内・鼻腔内）の実施手順について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	34
	定期考査			○	○		1
	喀痰吸引の実施の手順（気管カニューレ内） 【知識及び技能】 喀痰吸引（気管カニューレ内）に関する知識を理解し、正しく手技を習得できる 【思考力、判断力、表現力等】 喀痰吸引（気管カニューレ内）の手順を実施する際のヒヤリハット、アクシデントに対応できる思考過程・判断力等を身に付ける 【学びに向かう力、人間性等】 演習を通じて他者と協調し、積極的に授業に関わる	・演習を通じた技術の習得 ・技術定着テスト（4回）及び医療的ケア教員講習会修了看護師による修了テスト（1回）	【知識・技能】 喀痰吸引（気管カニューレ内）の実施手順について正しく理解し、技術を身に付けている 【思考・判断・表現】 喀痰吸引（気管カニューレ内）の実施手順に関する課題を発見し、解決しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 喀痰吸引（気管カニューレ内）の実施手順について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	12
							合計
							105

年間授業計画 様式例

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 福祉 科目 介護過程

教科：福祉 科目：介護過程 単位数：3 単位

対象学年組：第3学年 6組

教科担当者：

使用教科書：

教科 福祉 の目標：福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、福祉を通じ、人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成する。

【知識及び技能】 福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえた合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発達に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 介護過程 の目標：福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、人間の尊厳を支え自立支援を行うために必要な基礎的な資質・能力を次の通り育成することを目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
介護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする	介護に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、適切な介護の実践に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	記 時 数
第2編介護過程の展開 実教P62 第3章 介護計画の実施 第4章 介護計画の修正 【知識及び技能】 計画実施への説明・同意をしての実施、実施後の評価の仕組みがわかる。 【思考力、判断力、表現力等】 安全・尊厳の自立支援の実施、計画の適正さの考察ができる。 【学びに向かう力、人間性等】 計画の評価から再修正にへ繋げられ考察できる。	指導事項 ・実施に情報共有と情報管理 ・実施における留意点 ・実施状況の把握 ・実施の記録 ・評価の方法と留意点 ・介護計画の修正 教材 実教：介護過程 中央法規：介護過程 ・事例等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 利用者のニーズに合った根拠ある介護計画に添った実践となっているかについて考察する。 【思考・判断・表現】 介護に基づいた根拠ある介護実践となっているかについて考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 評価することにより、利用者の生活への向上となる介護計画への修正について考察する。	○	○	○	34
定期考査			○	○		1
第3編介護過程の実践的展開 実教P84 第1章 アセスメントの実際 第2章 介護過程の実際 【知識及び技能】 事例からICFの視点を活用して介護計画を作成がの仕組みを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 在宅や医療的ケアの事例にでのICFの視点を活用した介護計画の作成へ考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な事例を扱い、ICFでの視点を活用した介護計画の作成が考察できる。	指導事項 ・情報収集の実際 ・情報の解釈・関連づけ・統合化 ・在宅復帰を望む利用者の事例 ・医療的ケアが必要な利用者の事例 教材 実教：介護過程 中央法規：介護過程 ・事例等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ICFの視点を活用、課題を整理するため解釈、統合、計画立案の一連の仕組みが理解できる。 【思考・判断・表現】 アセスメントをICFのシートに記入して、優先順位を付けて課題を明確にした介護計画の立案ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 多様な事例のアセスメントからICFの視点に沿った課題を見出し現状に即した立案ができる。	○	○	○	34
定期考査			○	○		1
第4編 介護過程とチームアプローチ 実教P106 第1章 介護過程とチームアプローチの意義 第2章 介護過程とチームアプローチの実際 【知識及び技能】 多職種連携をして、地域ケアの推進をする過程を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 多職種連携からチームアプローチでの役割と連携の記録に繋がられる。 【学びに向かう力、人間性等】 施設と在宅介護のそれぞれのチームアプローチの実際の展開の考察ができる。	指導事項 ・チームアプローチの必要性 ・多職種連携と地域ケア ・介護サービス現場における会議 ・施設介護のチームアプローチ ・在宅介護のチームアプローチ 教材 実教：介護過程 中央法規：介護過程 ・事例等 ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 ICFの視点を活用、課題を整理するため解釈、統合、計画立案の一連の仕組みが理解できる。 【思考・判断・表現】 アセスメントをICFのシートに記入して、優先順位を付けて課題を明確にした介護計画の立案ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 多様な事例のアセスメントからICFの視点に沿った課題を見出し現状に即した立案ができる。	○	○	○	35
						105

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 福祉 科目 ことごとからだの理解

教科：福祉 科目：ことごとからだの理解 単位数：4 単位

対象学年組：第 3 学年 6 組～ 組

教科担当者：

使用教科書：

教科 福祉 の目標： 〓行うことなどを通して、福祉を通じ、人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会

【知識及び技能】実践的・体験的な学習活動を行うことを通じて、介護を実践するために必要な技能を習得する。

【思考力、判断力、表現力等】専門的な知識の能力を活用し適切に判断し、専門用語を用いて表現することができる。

【学びに向かう力、人間性等】福祉の見方や考え方を働かせ、他者と共同して問題解決など学びに向かう積極性を習得する。

科目 ことごとからだの理解 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実践的・体験的な学習活動を通じて、介護技術を活用し、個々に応じた介護を安全に実践できる。	専門的知識を習得し、その能力を生かして状況に応じた言語的表現、及び学習活動を積極的に行うことができる。	他者との協働活動や演習を通じて他者理解を深め、個々の良さを認め合い、協働して学習活動を積極的に行うことができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	1 認知症をとりまく状況 ①認知症ケアの歴史と理念 ②認知症高齢者の現状と施策 2 認知症の基礎的理解 ①認知症による症状 ②認知症の診断 ③認知症の主な病気の特徴 ④認知症の治療・予防 【知識及び技能】 認知症について正しく理解できる 【思考力、判断力、表現力等】 各認知症の症状について理解し、適切な対応・判断ができる 【学びに向かう力、人間性等】 他者と協働して積極的に学習に取り組める	・介護従事者として、認知症の方の状況を適切に理解できるよう指導する。 ・認知症の基本的な症状や特徴について正しく理解させる。 ・さまざまな認知症の症状に応じて対応できる力を身に付けさせる。 ・さまざまな状況に応じた認知症の人の心理について理解し、対応できる力を身に付けさせる。	【知識・技能】 教科書・視聴覚教材・学習プリント等を活用し積極的に学び知識を理解し、統合的に知識を活用する取り組み姿勢がある 【思考・判断・表現】 授業内で使用する学習プリント・ノートにおいて専門的な用語を用いて適切な表現を工夫できている 【主体的に学習に取り組む態度】 学習活動への参加状況と取り組み態度 他者と共同的に取り組んでいる	○	○	○	20
	定期考査			○	○		1
	3 認知症に伴う心身の変化と日常生活 ①認知症の人の特徴的な症状 ②認知症に伴う日常生活への影響 4 認知症と地域サポート ①地域におけるサポート体制 ②家族への支援 【知識及び技能】 認知症について正しく理解できる 【思考力、判断力、表現力等】 各認知症の症状について理解し、適切な対応・判断ができる 【学びに向かう力、人間性等】 他者と協働して積極的に学習に取り組める	・介護従事者として、認知症の方の状況を適切に理解できるよう指導する。 ・認知症の基本的な症状や特徴について正しく理解させる。 ・さまざまな認知症の症状に応じて対応できる力を身に付けさせる。 ・さまざまな状況に応じた認知症の人の心理について理解し、対応できる力を身に付けさせる。	【知識・技能】 教科書・視聴覚教材・学習プリント等を活用し積極的に学び知識を理解し、統合的に知識を活用する取り組み姿勢がある 【思考・判断・表現】 授業内で使用する学習プリント・ノートにおいて専門的な用語を用いて適切な表現を工夫できている 【主体的に学習に取り組む態度】 学習活動への参加状況と取り組み態度 他者と共同的に取り組んでいる	○	○	○	20
	定期考査			○	○		1
	1 障害の基礎的理解 ①障害の概念 ②障害者福祉の基本理念 2 生活機能障害の理解 ①身体障害 ②精神障害 ③知的障害 ④発達障害 ⑤高次脳機能障害 ⑥難病 【知識及び技能】 障害について正しく理解できる 【思考力、判断力、表現力等】 各障害の症状について理解し、適切な対応・判断ができる 【学びに向かう力、人間性等】 他者と協働して積極的に学習に取り組める	・介護従事者として、障害者の方の状況を適切に理解できるよう指導する。 ・障害の基本的な症状や特徴について正しく理解させる。 ・さまざまな障害の症状に応じて対応できる力を身に付けさせる。 ・さまざまな状況に応じた障害者の心理について理解し、対応できる力を身に付けさせる。	【知識・技能】 教科書・視聴覚教材・学習プリント等を活用し積極的に学び知識を理解し、統合的に知識を活用する取り組み姿勢がある 【思考・判断・表現】 授業内で使用する学習プリント・ノートにおいて専門的な用語を用いて適切な表現を工夫できている 【主体的に学習に取り組む態度】 学習活動への参加状況と取り組み態度 他者と協働的に取り組んでいる				35

